

令和5年度文部科学省 「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」

幼児教育のプロフェッショナリズム 育成プログラムの開発

研究成果報告書

令和6年2月

國學院大學

人間開発学部 子ども支援学科

はしがき

本報告書は、令和5年度文部科学省「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」において、國學院大學が委託を受け実施した「幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発」の1年間のプロジェクトの成果をまとめたものです。

現在、幼児期の生活習慣、認知的スキルや社会情動的スキルが、のちの人生に影響を与えること、そして質の高い幼児教育がそれらの育ちを支えていることが内外の研究で明らかとなってきています。この幼児教育の質向上の中核をなす幼稚園教諭等保育者が、養成課程で挫折しその多くが他業種へ就職する、就職しても勤続年数が短い、また結婚や出産などで一度離職した者の再就職が少ないといったことが原因で、深刻な人材不足、質の低下にあえいでいる状況があります。こうした現状を打開するため、文部科学省は令和5年度、より多くの人材が幼児教育の道を志し、継続的に働き続けられる職場環境の中で体系的に資質能力の向上を図る機会を確保すること、そして養成校入学前から免許資格保有まで、切れ目ない総合的なキャリア形成支援の取組を実施することを目的とし、「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデルの創出を各養成校に託しました。

國學院大學では「幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発」をテーマに掲げ、保育者養成に携わる人間開発学部子ども支援学科教員から5名のプロジェクトメンバーを選出し、高校生から養成校生、そして保育者まで、切れ目のない、質の高い保育者のキャリア形成を支援する包括的プロジェクトに学科を挙げて取り組むこととしました。本報告書にはプロジェクトメンバー及び学科教員の取組と議論の1年間の積み重ねが反映されています。本報告書が今後、質の高い幼児教育を担う保育者のキャリア形成のための資料として広く活用され、日本の幼児教育の質向上と子どもたちの資質能力向上に資すれば幸いです。

最後に、このプロジェクトの過程でご尽力を賜った教育委員会はじめ関係機関の皆様、体験授業に参加して下さった高校生の皆様、本学学生、卒業生に対し、深謝申し上げます。

令和6年2月

研究代表 國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授 吉永 安里

目 次

はしがき

第1章 研究概要	1
Ⅰ. 目的	1
Ⅱ. 研究計画	3
Ⅲ. 研究組織	5
1. 研究代表者、研究分担者	5
2. 研究協力者・研究協力校	6
第2章 研究報告	7
Ⅰ. 高校生を対象とした職の魅力発信	7
1. 体験授業	7
(1) 概要	7
(2) 体験授業実施報告	7
(3) 体験授業のアンケート結果	26
2. 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（ウェブ調査）	34
(1) 調査の概要	34
(2) 主な調査結果	34
(3) まとめ	50
Ⅱ. 養成校生を対象としたキャリア形成	53
1. OBOG の現職保育者との交流会	53
(1) OBOG 代表の講話	53
(2) OBOG と養成校生とのグループ懇談会	53
(3) OBOG との交流会についてのアンケート調査	53
2. オープンキャンパス	58
(1) 概要	58
(2) 在学生のおもてなし	59
(3) 学科紹介ガイダンス	60
(4) オープンキャンパスでの質問	60

Ⅲ. OBOG の現職保育者・離職者等を対象としたキャリア形成支援	65
1. OBOG の現職保育者対象の専門家による研修	65
2. 保育職について経験から語る	66
(1) 保育職の大変なこと、困っていることは？	66
(2) 保育職でよかったと思うことは？	68
(3) 保育職を続けるために、必要な条件は？	70
3. 若手幼稚園教諭・保育士を対象としたキャリア形成に関する意識調査（ウェブ調査）	72
(1) 調査の概要	72
(2) 主な調査結果	72
(3) まとめ	84
4. 令和4年度 卒業後の就業状況に関するアンケート調査	87
(1) 目的	87
(2) 方法	87
(3) 結果	87
(4) 結果を振り返って	88
 第3章 総括	 89
 資料	 91
資料1 調査票	91
資料2 マスコミ掲載記事	107
資料3 成果物 リーフレット	109

第1章 研究概要

I. 目的

近年、幼稚園教諭免許・保育士資格を取得できる保育者養成課程の学部・学科への志願者数が減少傾向にある。2021年には7,250人だった志願者数が、2023年には4,856人まで落ち込んで（全国私立大学531大学志願者：河合塾調べ）。この傾向は、本学、國學院大學人間開発学部子ども支援学科の入学試験（一般選抜試験）においても見られる。2019年には650人いた志願者も、2023年には389人まで減っている。

こうした保育者養成課程への志願者数の減少は、少子化（新谷，2003）もその一因ではあるが、他学部・他学科と比較しても減少率が高いことから、保育者の給与や長時間労働等の処遇問題、それに伴う離職率の高さ、不適切保育などについての報道による社会的な影響が否めない。質の高い保育者を育成するためにも、まず高校生が幼児教育・保育職の魅力を知り、保育者養成課程により多くの高校生が志願することが重要である。

そこで國學院大學人間開発学部子ども支援学科では、2022年度より、より多くの高校生に幼児教育・保育職の魅力を知らせるため、学科独自のYouTubeチャンネル「子ども支援10min.」（國學院大學人間開発学部子ども支援学科 channel：<https://www.youtube.com/@kokugakuin-kodomoshien>）を立ち上げ、大学や学科の入試に関するPRだけでなく、学科教員が各自の専門領域や児童文化財である絵本の魅力について広く社会に伝える取組を行ってきた。また、2023年度には、系列校である國學院高等学校と連携し、幼児教育・保育職の魅力を伝える出前授業を4回、学科学生主催のキャンパスツアーと交流会を1回行う予定である。しかし、これらの取組は、元々本学子ども支援学科を志望する高校生、幼児教育・保育職をすでに志望する高校生、あるいは系列校の高校生に限定されてしまうため、まだ進路の決定していない高校生、より広範にわたる地域の高校生も視野に入れて、幼児教育・保育職の魅力を伝え、関心を醸成していく必要があると考える。

また、現在、保育者不足が深刻化する中、原因として保育者の離職率の高さが指摘される（庭野，2020）。文部科学省（2018，2021）と東京都福祉保健局（2019）は、幼稚園教諭や保育士の退職理由として、他校種の教員と異なり、定年退職ではなく「転職」「家庭の事情」「職場の人間関係」「給料が安い」「仕事量が多い」「労働時間が長い」「職業適性に対する不安」など他の理由が多いことを明らかにしている。さらに森本・林・東村（2013）も、職の理由として「進路変更」「身体的・精神的な体調不良」「責任の重さ」「知識能力不足」「職場の人間関係」を挙げている。しかし、保育教諭養成課程研究会（2016）や有松・那須（2023）は、保育者が職場の豊かな同僚性を実感できるような仕組みや、職業適性の自覚を促し保育効力感を上げる仕組みの構築ができれば、保育者の在職意欲は向上し、離職防止に向けた働きかけのひとつとなりうることを示唆している。ま

た、その仕組みとして保育教諭養成課程研究会（Ibid.）は研修が重要であるとしている。そこで本学では、2013 年度より卒業生（全職種）を対象としたホームカミングデー、2021 年度より卒業生（新卒者のみ）を対象としたフォローアップ研修を行ってきた。しかし、特に保育職の離職率が高く、勤務年数が長いと離職意向が高まる傾向がある（庭野，Ibid.）ことから、保育職にターゲットを絞り、また経験年数の長い保育者も対象とするホームカミングデーやフォローアップ研修を行う必要があると考えられる。

さらに本学では、入学当初は保育職への就職を希望している学生が多いにもかかわらず、一般就職に進路変更する学生が 2019 年 33%、2020 年 37%、2021 年 25%、2022 年 25%、2023 年 35%と例年 30%前後いる。こうした傾向は、他大学でも見られ、小畠（2020）は、3 年生の 37%が進路を変更し、その多くが保育職からの他職種への変更であることを明らかにした。変更の理由として「給料がよい」「保育職には向いていない」「保育職に比べて残業が少ない」など、離職の原因と共通する処遇の問題や職業適性を挙げている。また、入学前に保育体験をした学生が他職種へ変更する割合が高いことも示唆している。小畠（Ibid.）は、高校や中学校での短い保育体験で保育の楽しさを感じ、よい印象だけを持って保育養成課程に進み、実習で保育現場の現実を知り否定的になるということがあったと指摘している。したがって高校から保育職を目指し、大学の実習指導を経て保育職に就くまでのプロセスにおいて、高校段階では、単に楽しい経験だけをする保育体験ではなく、保育職について正しく知ることが重要であり、養成課程では適切な実習指導を行うとともに、OBOG の現職保育者から保育職の実際（苦労やそれだけではない魅力）を養成校生に伝えてもらう機会を設定する必要があると考える。

そこで、本研究では、上記①保育者養成課程志願者数の減少②保育職離職者の増加③保育者就職者の減少という 3 つの課題に対し、単に保育者養成課程への志願者数を増やし、保育職の離職者を減らし就職者を増やすということではなく、現在、求められている質の高い幼児教育を担うことのできる高度な専門性をもつ幼児教育のプロフェッショナルを育成し、現場での定着を図る「幼児教育のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発」を目的とし、以下の 3 つの研究を行った。

- ①高校生を対象とした保育職の魅力発信として、本学教員が高等学校へ赴き、幼児教育の重要性に関する講演を行ったり、高校生と養成校生との交流の機会を設けたりし、高校生に保育職の魅力や進路選択に役立つ情報提供を行う。
- ②養成校生を対象としたキャリア形成支援として、保育職に就いている OBOG と養成校生との交流会を開き、養成校生が保育職の実際を知り、保育職の実際とその魅力を知り、志望する際の不安を払拭できるようにする。
- ③現職教諭を対象としたキャリア形成支援として、経験年数にかかわらず保育職に就く OBOG を対象としたホームカミングデーを実施し、その中で、保育の現代的課題についての研修を受けられる機会を設けたり、大学教員に相談できる茶話会や相談会の時間を設け

たりし、保育効力感を上げ、保育職に係る困難を乗り越えるそれぞれの方法を見だし、保育職への定着を図る仕組みづくりを開発する。

【引用文献】

- 有松徹・那須信樹（2023）保育者の在職意識にかかる一考察：同僚性と保育者効力感の視点から 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要（55）7-12.
- 小畠啓子（2020）保育者養成学科に在籍する大学生の意識調査 環太平洋大学研究紀要（15） 187-192.
- 新谷公朗（2003）短期大学の情報教育による経営差異化の一考察 同志社政策科学研究（4） 103-122.
- 庭野晃子（2020）保育従事者の離職意向を規定する要因 保育学研究 58（1），105-114.
- 文部科学省（2018）平成 28 年度学校教員統計調査（<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400003&tstat=000001016172>：2024. 01. 31 閲覧）
- 文部科学省（2021）令和元年度学校教員統計調査（<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400003&tstat=000001016172>：2024. 01. 31 閲覧）
- 東京都福祉保健局（2019）平成 30 年度東京都保育士実態調査報告書（<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/shikaku/30hoikushichousa.html>：2024. 01. 31 閲覧）
- 森本美佐・林悠子・東村知子（2013）新人保育者の早期離職に関する実態調査 紀要（44）101-109.
- 保育教諭養成課程研究会編（2016）「養成から現職への学びの連続性を踏まえた新規採用教員研修」 保育教諭養成課程研究会

Ⅱ．研究計画

研究計画については、全国の高校生と若手幼稚園教諭・保育士・保育教諭を対象としたウェブ調査に遅れが生じ 12 月に実施されたが、それ以外はおおむね計画通りであった。最終的な研究の流れは表 1 の通りである。研究の目的に沿って、①中高生を対象とした職の魅力発信②養成校生を対象としたキャリア形成支援③現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援の 3 本柱で研究を進めた。

①では高校生を対象に「保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演」の取組として体験授業を行った。また、「養成校生との交流の機会の設定」として、希望する養成校生を募り、高校生のキャンパスツアーと大学進学、大学での学修、就職活動などについての質問に率直に答えてもらう時間を担当してもらった。また②では、OBOG と養成校生との交流会、③若手教諭に向けたホームカミングデーの実施では、現職保育者対象の研修、大学教員との茶話会、養成校生への講話とグループ懇談を行った。

表 1.2.1 研究計画（最終版）

月	全体会議	中高生を対象とした職の魅力発信	養成校生を対象としたキャリア形成支援	
		保育体験等の実施、幼児教育の重要性に関する講演	養成校生との交流の機会の設定	現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援
			計画検討	若手教諭に向けたホームカミングデーの実施
7月	・全体構想と事業計画についての確認と検討 ・事業の年間活動計画	計画検討	計画検討	OB/OGなどとの交流会
8月	・内容についての協議 ・月次報告			
9月	・月次報告			
10月	・月次報告	・出前授業 ・高校生の意識調査	調査まとめ	養成校生・OBOG交流会準備
11月	・中間報告	・出前授業 ・高校生の意識調査		養成校生・OBOG交流会実施
12月	・月次報告	・出前授業 ・高校生の意識調査 ・全国の高校生を対象とした保育職への意識調査		調査まとめ
1月	・報告書作成	・調査まとめ ・報告書作成		

Ⅲ. 研究組織

1. 研究代表者、研究分担者

本研究の研究代表者、研究分担者及び役割分担と専門領域については表 1.3.1 の通りである。

表 1.3.1 研究組織

メンバー氏名	所属機関		具体的な役割分担	専門領域・主な業績
	所属	職名		
よしなが あさと	國學院大學		研究代表・プロジェクトリーダー	幼小接続、言語発達、領域言葉、国語教育
吉永 安里	准教授		全テーマに係る活動の実施・総括	□『幼児教育と小学校教育における言葉の指導の接続－読むことの指導の差異と連続性から』（国間書房, 2023, 単著） ○横浜市、練馬区、茨城県幼保小接続カリキュラムアドバイザー 他多数
すずき みゆき	國學院大學		テーマ①：中高生を対象とした職の魅力発信リーダー	子育て支援、子どもの生活習慣、領域健康
鈴木 みゆき	教授		テーマ②：養成校生を対象としたキャリア形成支援マネジメント	□神長美津子・湯川秀樹・鈴木みゆき・山下文一編著『保育者論－保育者としての専門的成長を支えるー』（光生館, 2023, 共編著） ○文部科学省初等中等教育局 中央教育審議会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会委員 他多数
しまだ ゆきこ	國學院大學		テーマ③：現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援リーダー	創造性開発、STEAM、教材開発（表現）、領域表現
島田 由紀子	教授		テーマ②：養成校生を対象としたキャリア形成支援マネジメント	□駒久美子・島田由紀子編著『0歳～6歳児 創造性を豊かにする保育』（東洋館出版社, 2023, 共編著） ○千葉県市川市教育委員 他多数
のぞわ じゅんこ	國學院大學		テーマ②：養成校生を対象としたキャリア形成支援副リーダー	インクルーシブ保育、臨床発達心理、教材開発（特別支援教育）
野澤 純子	教授		テーマ①：中高生を対象とした職の魅力発信マネジメント	□藤後悦子・柳瀬洋美・野田敦史・及川留美編著『社会の子育ての実現』（ナカニシヤ出版, 2022, 共著） ○日本福祉心理学会常任理事、編集副委員長 他多数
あおき こうたろう	國學院大學		テーマ②：養成校生を対象としたキャリア形成支援リーダー	自然体験、運動遊び、SDGs、領域環境、領域健康
青木 康太郎	准教授		テーマ③：現職教諭・離職者等を対象としたキャリア形成支援マネジメント	□神長美津子・高柳恭子・桂木奈己・青木康太郎編著『子どもと環境 子どもの感性をひらく保育者のかかわり』（光生館, 2022, 共編著） ○こども課程審議会基本政策部会臨時委員 他多数

2. 研究協力者・研究協力校

本研究の実施にあたっては、多数の研究協力者、研究協力校等のお力添えをいただいた。
ご多用の中、本研究に快くお力をお貸しくださった皆様に、厚く御礼申し上げたい。

(1) 中高生を対象とした職の魅力発信

全国高等学校長協会家庭部会・公益財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会

事務局長 加藤 路子氏

東京都教育委員会

富山県教育委員会

埼玉県教育委員会

福岡県立行橋高等学校

兵庫県立明石清水高等学校

神奈川県立厚木東高等学校

神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校

埼玉県立熊谷農業高等学校

東京都立広尾高等学校

東京都立豊多摩高等学校

富山県立雄山高等学校

富山県立桜井高等学校

学校法人旭学園 佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校

学校法人加藤学園 加藤学園高等学校

学校法人國學院大學 國學院大學久我山中学高等学校

学校法人國學院大學 国学院高等学校

学校法人國學院大學 國學院大學栃木中学・高等学校

学校法人塩原学園 本庄第一高等学校

学校法人湘南学院 湘南学院高等学校

学校法人東京農業大学 東京農業大学第二高等学校

学校法人八千代松陰学園 八千代松陰中学・高等学校

(2) 養成校生を対象としたキャリア形成支援及び現職教諭・離職者を対象としたキャリア形成支援

令和5年度幼稚園教育実習 1A 履修の養成校生（國學院大學人間開発学部子ども支援学科 2 年生・3 年生、國學院大學人間開発学部初等教育学科 3 年）

オープンキャンパス時のガイドをしてくれた國學院大學人間開発学部子ども支援学科 2 年生・3 年生・4 年生

保育者研修・茶話会・養成校生との交流会にご参加くださった國學院大學人間開発学部子ども支援学科 OBOG

第2章 研究報告

I. 高校生を対象とした職の魅力発信

1. 体験授業

(1) 概要

高校生を対象とした保育職の魅力発信として、本学教員が高等学校へ赴き、幼児教育の重要性に関する講演を行ったり、高校生と養成校生との交流の機会を設けたりし、高校生に保育職の魅力や進路選択に役立つ情報提供を行った。

授業内容は、遊びや創作活動、絵本、健康、栄養、接続期、障害児保育、発達心理学などから9つのテーマを設定した。テーマ選定は高等学校の希望を優先し、担当教員が高等学校へ出向いて授業を行った。実施地域は全国1都9県、18校の高等学校で実施した(表2.1.1)。

(2) 体験授業実施報告

体験授業で使用した資料(一部抜粋)を(1)の表にあるテーマ番号の順に以下に示した。また、授業中の様子(写真)を一部掲載した。

表 2.1.1 体験授業の概要(テーマ、担当講師、実施高等学校一覧)

No.	テーマ	授業講師	実施高等学校名(実施時期)
1	これからの保育・教育を考える	吉永安里	東京都立広尾高等学校(10月)、埼玉県私立本庄第一高等学校(11月)
2	小1プロブレム解消	吉永安里	東京都立広尾高等学校(10月)
3	保育ってなあに?	鈴木みゆき	國學院高等学校(7月)、福岡県立行橋高等学校(10月)、埼玉県立熊谷農業高等学校(1月)
4	食を中心に	鈴木みゆき	兵庫県立明石清水高等学校(10月)、佐賀県私立佐賀女子短大附属佐賀女子高等学校、國學院栃木高等学校(11月)
5	創造的な遊び —つくる・遊ぶ・考える—	島田由紀子	國學院高等学校(7月)、國學院大學久我山高等学校、神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校、富山県立桜井高等学校(11月)、富山県立雄山高等学校(12月)
6	臨床発達心理学からの障害児保育	野澤純子	静岡県私立加藤学園高等学校(11月)、神奈川県私立湘南学院高等学校(11月)、千葉県私立八千代松陰中学・高等学校
7	遊びは学び	青木康太郎	東京都立豊多摩高等学校(10月2回)、神奈川県立厚木東高等学校、東京農業大学第二高等学校(12月)
8	子どもの心理学	結城孝治	國學院高等学校(7月)
9	生涯発達を支える幼児期の教育とは	柳生崇志	國學院高等学校(7月)

No.1

これからの保育・教育を考える

國學院大學人間開発学部子ども支援学科
吉永安里



将来就くことになる職業は？

- ・2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの **65 %**は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く。
(キャシー・デビッドソン, 2011)
- ・今後10年～20年程度で、アメリカ国内の47%の仕事が機械にとって代わられるリスクが高い。
(カール・フレイ & マイケル・オズボーン, 2013)
- ・今後10年～20年後に、日本の労働人口の約 **49 %**が就いている職業が機械によって代替される可能性が高い。
(野村総合研究所, 2015)

⇒自動化による失業リスク

- 日本は調査対象国の中で最も**女性の失業リスクが高い**！
- ⇒学歴が高卒以下の場合、失業リスク男性40%・女性50%
大卒の女性の場合1%！ (IMF, 2018)

(表1) この5年間で働く人が増えた職業ランキング (人数ベース)

職業	仕事の種類	令和2年	平成27年	増減数 (人)
1位	その他の一般事務従事者	3,737,860	3,407,430	330,430
2位	営業・販売事務従事者	872,440	695,070	177,370
3位	その他の運搬・清掃・包装等従事者	1,150,210	1,006,200	144,010
4位	ソフトウェア作成者	389,760	260,230	129,530
5位	介護職員 (医療・福祉施設等)	1,358,960	1,262,250	96,710
6位	ビル・建物清掃員	910,680	818,170	92,510
7位	システムコンパイル・設計者	666,770	664,640	2,130
8位	保育士	634,080	542,600	91,480
9位	他に分類されないサービス職業従事者	456,590	385,770	70,820
10位	看護師 (准看護師を含む)	1,385,950	1,300,060	85,890

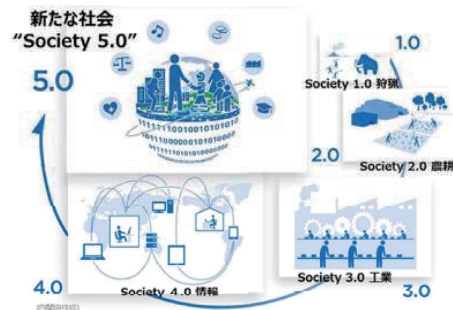
(表2) この5年間で働く人が増えた職業ランキング (増加率ベース)

職業	仕事の種類	令和2年	平成27年	増減率 (%)
1位	ソフトウェア作成者	389,760	260,230	49.8%
2位	理学療法士、作業療法士	202,540	143,490	41.2%
3位	視能訓練士、言語聴覚士	26,930	19,210	40.2%
4位	不動産仲介・売買人	99,270	74,890	32.6%
5位	その他の経営・金融・保険専門職業従事者	82,820	63,810	29.8%
6位	幼稚園教員	143,310	112,260	27.7%
7位	他に分類されない専門的職業従事者	308,100	243,080	26.7%
8位	営業・販売事務従事者	872,440	695,070	25.5%
9位	彫刻家、画家、工芸美術家	47,320	37,820	25.1%
10位	他に分類されないサービス職業従事者	456,590	365,770	24.8%

中島ゆき (2023) 最新国勢調査からみる職業変化「この5年で増えた職業・減った職業」大正大学地域構想研究所

これからの新たな時代

狩猟社会 ⇒ 農耕社会 ⇒ 工業社会 ⇒ 情報社会 ⇒ Society 5.0



内閣府「Society 5.0とは」

▷Society 5.0 において求められる人材像

技術革新や価値創造の源となる飛躍知を**発見・創造する人材**と、それらの成果と社会課題をつなげ、プラットフォームをはじめとした**新たなビジネスを創造する人材**

▷Society 5.0 において求められる力

知識・技能、思考力・判断力・表現力をベースとして、言葉や文化、時間や場所を超えながらも自己の**主体性**を軸にした**学びに向かう一人一人の能力や人間性**

Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会 (2018)

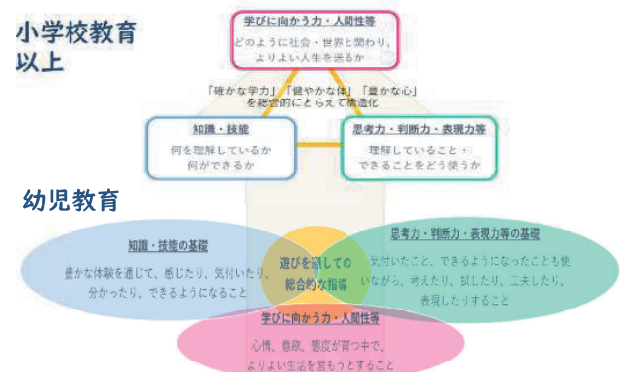
新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内外タスクフォース

「Society 5.0 に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」pp.6-7

育みたい資質・能力とそのつながり

小学校教育以上

幼児教育



中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 (2016)

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて (報告)」をもとに筆者作成



<http://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/>

2030 年に向けた生徒エージェンシー

▷エージェンシー：自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与える能力や意志を持つこと

「働きかけられるというよりも**自らが働きかけること**であり、型にはめ込まれるというよりも**自ら型を作ること**であり、また他人の判断や選択に左右されるというよりも**責任を持った判断や選択を行うこと**」

▷共同エージェンシー：生徒が、共有された目標に向けて邁進できるように支援する、保護者との、教師との、コミュニティとの、そして生徒同士との、相互にやり取りをし、互いに支え合う関係

「教えと学びの過程（教授学習過程）の中で**教師と生徒が協働して創っていくこと**」

「予測困難かつ大人が必ずしも答えを持っていない時代の中で、生徒が未来を形作っていくために、**多様な他者と学習を共に構築し、答えを共に創っていくこと**が求められているといえる。

「Student Agency for 2030 仮訳」
https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/OECD_STUDENT_AGENCY_FOR_2030_Concept_note_Japanese.pdf

仲間はお互いのエージェンシーに影響を与える

▷共同エージェンシーは**生徒間のレベル**でも起こる。

▷生徒が学ぶことに対して能動的な関わりを見せるようになると、これまで以上に授業に参加し、質問し合い、開かれた率直な話し合いを展開し、**反対意見や挑戦的な考え**を述べるようになる。

▷問題解決に従事している間、生徒はより**高度な分析スキルやコミュニケーションスキル**を獲得するだけでなく、より**創造的**でいられるようになる。

▷生徒はより強い**自律性の感覚**を抱くようになり、**チームで活動**することにより**自信**を持つようになる。

⇒共同エージェンシーによって、生徒はより**良い学業成績**をあげ、**学びに向かう態度と粘り強さ**を身につけ、より**大きな力**がみなぎる感覚を得て、**分析的思考や問題解決能力**をもさらに高めていくことが可能になる。

エージェンシーの発揮のための二つの要素

①学習環境

・別々の学習経験や機会をつなげて考える

・他者との**協働（対話）**

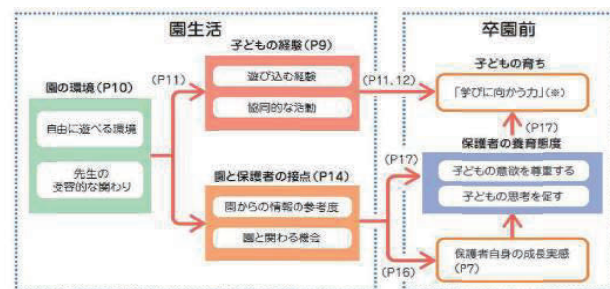
・子ども自身が**学習プロジェクトや学習過程**を計画することの支援。動機づけ。

⇒一人一人にカスタマイズされた学習環境（**個別最適化**）

②基礎力：読解力や数学力+デジタル情報やデータを使いこなす力

0.	沈黙	若者が貢献できると若者も大人も信じておらず、大人がすべての活動を主導し、すべての意思決定を行うのに対して若者は沈黙を保つ。
1.	操り	主張を正当化するために大人が若者を利用し、まるで若者が主導しているかのように見せる。
2.	お飾り	主張を助ける、あるいは勢いづけるために大人が若者を利用する。
3.	形式主義・形だけの平等	大人は若者に選択肢を与えているように見えるが、その内容あるいは参加の仕方に若者が選択する余地は少ない、あるいは皆無である。
4.	若者に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ	若者には特定の役割が与えられ、若者が参加する方法や理由は伝えられているが、若者はプロジェクトの主導や意思決定、プロジェクトにおける自分たちの役割に関する判断には関わらない。
5.	生徒からの意見を基に大人が導く	若者はプロジェクトの設計に関して意見を求められ、その結果について報告を受けるが、大人がプロジェクトを主導し、意思決定を行う。
6.	意思決定を大人・若者で共有しながら、大人が導く	大人が進め、主導するプロジェクトの意思決定の過程に、若者も参画する。
7.	若者が主導し、方向性を定める	若者が大人の支援を受けてプロジェクトを主導し、方向性を定める。大人は意見を求められ、若者が意思決定しやすいように指針やアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は若者が行う。
8.	若者が主導し、大人とともに意思決定を共有する	若者がプロジェクトを主導し、意思決定は若者と大人の協働で行われる。プロジェクトの進行や運営は若者と大人の対等な立場で共有される。

Hart, R. (1997). Children's Participation: The Theory and Practice of Involving Young Citizens in Community Development and Environmental Care, UNICEF. Modified from the Ladder of Student Participation by the OECD Student Sphere (Linda Lam, Peter Suante, Derek Wong, Gede Witsen, Rio Miyazaki, Celina Ferch, Jonathan Lee and Ruby Bourke).



※「学びに向かう力」について
 本調査では、子どもの育ちとして「好奇心」「関わり性」「自己規制」「自己主張」「がんばる力」を「学びに向かう力」と捉えて、園生活との関連を調べた。「学びに向かう力」は生涯にわたる、社会生活を営むうえで基盤となる力である。また、「幼児期から小学生前半の発達段階調査」(ベネッセ教育総合研究所)において、小学生入学期間の学習や生活ににつながる幼児期の学びとして紹介した3つの軸(「学びに向かう力」「文筆・数・算」「芸術表現」)のひとつである。

ベネッセ (2016) 「園での経験と幼児の成長に関する調査」

No.2

小1プロブレムを解決しよう！

國學院大學人間開発学部子ども支援学科
吉永安里



國學院大學

小1プロブレムとは？

小1プロブレム

「授業不成立という現象を中心にして、学級が本来持っている学び・遊び・暮らしの機能が不全になっている、小学校1年生の集団未形成の問題」
(新保, 2010)

- ▶授業中立ち歩く
- ▶話が聞けない
- ▶先生の指示通り行動しない
- ▶集団行動ができない
≠学級崩壊

子どもたちが
悪いのか？

【小1プロブレムの原因】

- ①子どもたちを取り巻く**環境の変化**
- ②親の**子育ての孤立化と未熟さ**
- ③親子とも**自尊感情が低く、人間関係づくりが苦手**
- ④幼児教育と学校教育の**段差の拡大**
- ⑤自己完結し、**連携が少ない学校園**
- ⑥今の子どもにミスマッチの**頑固な学校文化や学校教育システム**

新保 真紀子 (2010)
『小1プロブレムの予防とスタートカリキュラム—幼児教育と学校教育の学びをつなぐ』より抜粋。一部改変
明治図書

幼児教育と小学校教育のちがい

幼児教育
(幼稚園、保育園、認定こども園)

小学校教育



▶環境を通した総合的な指導

▶教科・領域等の指導

▶幼児の自発的な遊び・活動

▶教師の発問・指示による授業

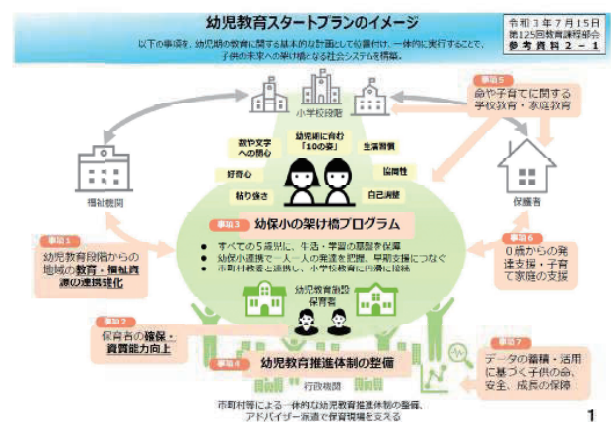
▶学びの芽生え・無自覚な学び

▶自覚的な学び

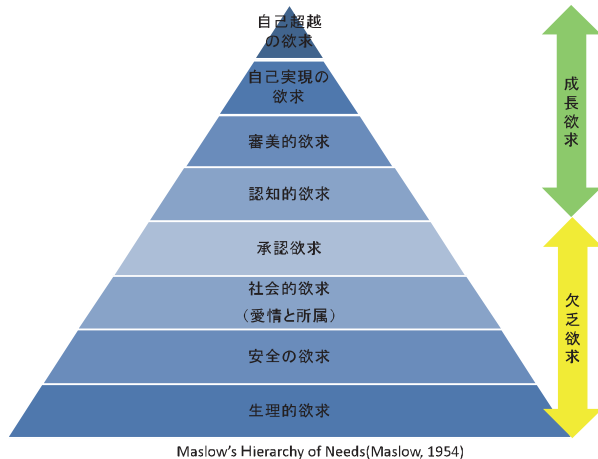
小1プロブレムを乗り越えるために

各国の幼小接続の特徴

幼小分離型	準備教育型	発達に合わせた教育と接続の仕方を工夫する
幼小分離型 幼児教育 Holistic Approach 小学校教育 Academic Approach 北欧、ドイツ、オランダ、ベルギー、イタリア、日本など ※減りつつある。準備教育型か新たな出会いの場型へ移行。	準備教育型 幼児教育 Academic Approach 小学校教育 Academic Approach アメリカ、南米、フランス、イギリス、中国など ※増えつつある。学力低下の危機感。移民等の影響。	新たな出会いの場型 幼児教育 Holistic Approach 小学校教育 Academic Approach スウェーデン、フィンランド、日本など ※幼児教育と小学校教育の間に「汽水城」を設けようとする考え方。0年生を小学校側に設ける国もある。日本は施設は別だが、カリキュラムをつなげようとしている。



文部科学省 (2021) 「教育課程部会 (第125回) 配付資料 2-1 幼児教育スタートプランのイメージ」



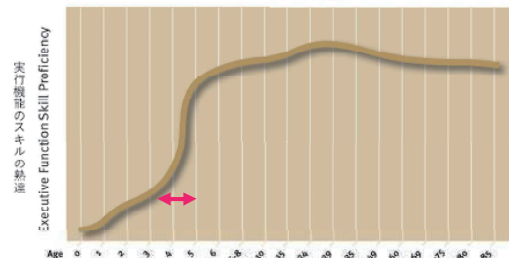
▶実行機能の発達と生涯に渡る影響

* 3～5歳に劇的に発達する

⇒学校での達成・よい行動・健康・職業的成功

Executive Function Skills Build Into the Early Adult Years

若年成人期にかけて蓄積される実行機能のスキル

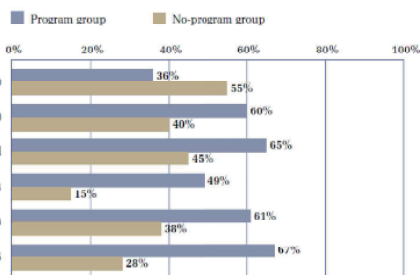


Weintraub, S., Dikmen, S.S., Heaton, R.K., Tulsky, D.S., Zelazo, P.D., Bauer, P.J., Carlozzi, N.E., Sletten, J., Biltz, D., Walner-Jallen, K., Fox, N.A., Beaumont, J.L., Mungas, D., Richler, J., Descompo, J.A., Anderson, J.E., Manly, J.J., Borosh, B., Havlik, R. & Gershon, R. (in Press). NIH Toolbox for the Assessment of Behavioral and Neurological Functions: Cognition domain instruments. *Neurology*.
Harvard University Center on the Developing Child

▶ハイスコープ就学前プロジェクトの縦断研究

Major Findings: High/Scope Perry Preschool Study at 40

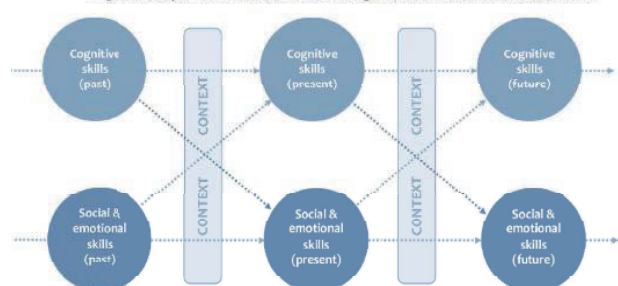
質の高い
幼児教育



Lawrence J. Schweinhart, Ph.D. President, High/Scope Educational Research Foundation
"The High/Scope Perry Preschool Study Through Age 40: Summary, Conclusions, and Frequently Asked Questions"(chrome-extension://efaidnbmnnnnibpcjpcgclefindmka/https://image.highscope.org/wp-content/uploads/2018/11/16053615/perry-preschool-summary-40.pdf

▶認知的スキルと社会情緒的スキルの相互作用

Figure 2.1. Dynamic interactions between cognitive and social and emotional skills



OECD(2018) Social and emotional skills for student success and well-being: Conceptual framework for the OECD study on social and emotional skills, OECD Education Working Paper No.173

育みたい資質・能力とそのつながり

小学校教育
以上

学びに向かう力・人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」
を総合的にとらえて最適化

知識・技能

何を理解しているか
何ができるか

思考力・判断力・表現力等

理解していること、
できることをどう使うか

幼児教育

知識・技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、
分かったり、できるようになること

思考力・判断力・表現力等の基礎

気付いたこと、できるようになったことも使
いながら、考えたり、悩んだり、工夫したり、
表現したりすること

遊びを通しての
総合的な指導

学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、
よりよい生活を営もうとすること

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2016)
「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」をもとに筆者作成

幼児教育

交流活動
授業参観

安心・信頼関係
資質・能力
自発的な遊び
架け橋プログラム(5歳児)

小学校教育

交流活動
保育参観
園での勤務体験

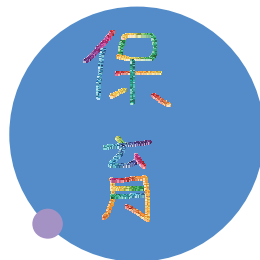
安心・信頼関係
資質・能力
スタートカリキュラム(入学当初)
架け橋プログラム(1年生)
弾力的な時間割
総合的・関連的な指導
(生活科、総合的な学習の時間)
など

など

No. 3

保育を知る 幼稚園教育要領と 保育所保育指針

國學院大學 鈴木みゆき



- トピック 1 保育ってなあに？
- トピック 2 日本の就学前教育施設
- トピック 3 幼稚園教育要領と
保育所保育指針
- トピック 4 保育は面白い！

2

1. 幼稚園・保育所ってどんなところ？.. あなたはいかがでしたか？

○園生活時代の思い出

その時の感情（顔）を選んでください。

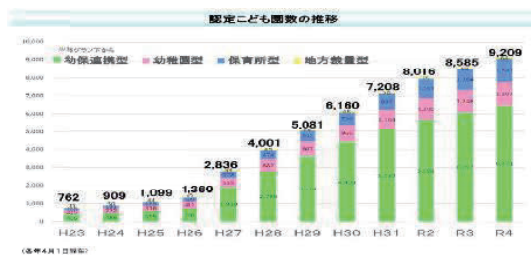
○幼稚園や保育所の先生のイメージを

一言書いてください。



3

増え続ける認定こども園



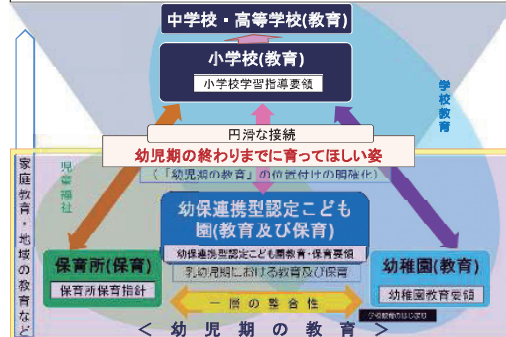
4

2. 日本における乳幼児の就学前教育施設

所 管 文 部 科 学 省	厚 生 労 働 省	内 閣 府 ・ 文 科 省 ・ 厚 労 省
実施法や 学校教育法に基づく学校	児童福祉法に基づく児童福祉施設	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律
目的	「乳幼児の発達を促すこと、保育を必要とする乳幼児は幼児を保育すること」（児童福祉法第9条）。	幼稚園及び保育所等における小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに関係者に対する子育て支援を総合的に提供。（子ども・子育て関連3法）
対象	満3歳から小学校就学前の幼児に関する施設（学齢遊戯室等）。	保育に欠ける子どもを受け入れて、保育・教育を行う施設（学齢遊戯室等）。

幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園における教育と保育の整合性、
小学校教育との円滑な接続に向けて



「3つの資質・能力」「3つの視点・5つの領域」「10の姿」の関係

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体 自立心 協調性 読書性・情報活用能力 社会生活との関わり 思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重 数量や図形、図表や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

活動全体

ねらい・内容

健康 人間関係 環境 言葉 表現
ゆやかに伸び伸びと育つ 発達な人と気持ちで遊び合う 発達なものとの関わり感性が育つ

育みたい資質・能力

○豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

○気付いたことや、できるようになったことなどを伝え、誇えたり、似たり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

○心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を送ろうとする「学びに向かう力、人間性等」

3. 幼稚園教育要領と保育所保育指針

保育所保育指針について

○ 第1章 総則
第1条 幼稚園教育の目的
第2条 幼稚園教育の目標
第3条 幼稚園教育の位置と関係
第4条 幼稚園教育の役割と機能
第5条 幼稚園教育の目標と内容
第6条 幼稚園教育の目標と内容
第7条 幼稚園教育の目標と内容

第1章 総則

○ 幼稚園教育の目的
○ 幼稚園教育の目標
○ 幼稚園教育の位置と関係
○ 幼稚園教育の役割と機能
○ 幼稚園教育の目標と内容
○ 幼稚園教育の目標と内容
○ 幼稚園教育の目標と内容

第2章 保育の目標

○ 保育の目標
○ 保育の目標
○ 保育の目標
○ 保育の目標
○ 保育の目標
○ 保育の目標

第3章 保育の内容

○ 保育の内容
○ 保育の内容
○ 保育の内容
○ 保育の内容
○ 保育の内容
○ 保育の内容

第4章 保育の環境

○ 保育の環境
○ 保育の環境
○ 保育の環境
○ 保育の環境
○ 保育の環境
○ 保育の環境

第5章 保育者の役割

○ 保育者の役割
○ 保育者の役割
○ 保育者の役割
○ 保育者の役割
○ 保育者の役割
○ 保育者の役割

共通しているのは「主体的な遊びが大切」「環境を通した指導」



ここからの展開
予想される子どもの姿

○○屋さんになりたい！
さて、あなたは何をどこに
用意しますか？

4. 保育は面白い

・○○さんになりたいな

◎保育者の役割は？

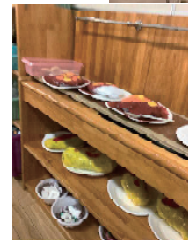
★準備するもの

・「商品」を作る素材は？

・「商品」を作る場所は？

・「商品」を売る場所は？

・売り言葉・買い言葉



絵本



ありがとうございます

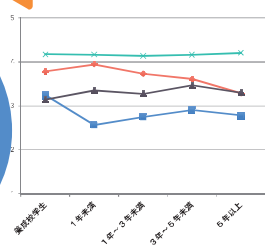


図1 職員の関係の発達：平成27年度文科省調査研究

No. 4

子どもと食育 保育の中の食

國學院大學 鈴木みゆき

1. あなたにとって「食」は？

○「食」と聞いて思い浮かぶ言葉 5つ

○「10年後の今日の夕食」を描いてください



2

母乳 離乳食 偏食 好き嫌い 食わず嫌い 孤食
欠食 孤欠個固 食育 栄養 貧困 子ども食堂
手づかみ食べ 箸 食器の使用
ままごと 栽培 収穫 調理
食
生活リズム 虫歯 味 におい
SDGs アレルギー お手伝い 絵本 歌 排泄

2. 子どもの「食」をめぐる現状と課題



4

学力と生活習慣 平成30年度学力・学習状況調査

全国一生涯(国・公・私)

※以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

※4月17日に、教科に関する調査(国語A、国語B、数学A、数学B、理科)を一つ以上実施し、かつ、生徒質問紙調査を実施した生徒の結果を対象としている。

質問番号	質問事項	回答数	生徒数の割合(%)	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
(7)	朝食を毎日食べていますか			(32問)	(9問)	(36問)	(14問)	(27問)
<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>								
選択肢	生徒数	割合(%)	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	
1 している	793,600	79.8	77.8	63.3	68.9	69.9	68.3	
2 どちらかといえば している	121,044	12.2	73.7	58.4	61.2	42.2	62.2	
3 あまりしていない	53,885	5.4	70.1	54.4	55.5	36.8	57.8	
4 全くしていない	26,123	2.6	67.0	50.9	52.0	33.1	54.6	

3. 保育の場でできること 食育基本法

・3つの柱

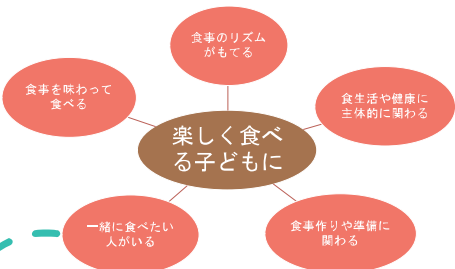
- ・食を選ぶ力を身につける
- ・伝統文化を継承する
- ・地球規模で考える

★子どもへの食育の5つの目標

1. 食べる物を選択する力
2. 料理を作る力
3. 食べ物の味が分かる力
4. 食べ物の育ちを感じる力
5. 元氣な身体が分かる力



食を通じて期待する5つの姿 保育所における食育に関する指針



7

食に関わるねらい及び内容 乳児（保育所保育指針）

・ねらい

(3) 食事、睡眠等のリズムの感覚が芽生える

・内容

③個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、**食べることを楽しむ**

・内容の取扱い

健康な心と体を育てるためには望ましい食習慣の形成が重要であることを踏まえ、離乳食が完了期に徐々に移行する中で、様々な食品に慣れるようにすると共に、和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、**進んで食べようとする気持ちが育つ**ようにすること。なお、食物アレルギーのある子どもへの対応については、嘱託医（学校医）等の指示や協力の下に適切に対応すること。

8

1歳以上3歳未満児

・ねらい

③健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、**自分でしてみようとする気持ちが育つ**

・内容

②食事や午睡、遊びと休息など、保育所における**生活のリズム**が形成される

④**様々な食品や調理形態に慣れ**、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ

・内容の取扱い

健康な心と体を育てるためには**望ましい食習慣の形成が重要**であることを踏まえ、ゆったりとした雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、**進んで食べようとする気持ちが育つ**ようにすること。

なお、食物アレルギーのある子ども（園児）への対応については、嘱託医（学校医）等の指示や協力の下に適切に対応すること。

9

3歳以上（幼稚園教育要領）

・ねらい

(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する

・内容

(5) 先生（保育士等/保育教諭等）や友達と食べることを楽しみ、**食べ物への興味や関心をもつ**

・内容の取扱い

健康な心と体を育てるためには**食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切**であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味関心をもったりするなどし、**食の大切さに気付き**、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。

10

気づく、感じる、知る、学ぶ



11



創造的な遊び —つくる・遊ぶ・考える—

國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科 島田由紀子

子ども支援学科での表現に関する学び

子どもの表現は「造形表現」「音楽表現」「身体表現」等と区分されていません。子どもの発達による「表現（表出）」を見出し、さらに育むために、その子どもの「表現」に応じたアプローチが大切です。

子どもの表現と発達を理解しどのように指導するのか考える、子どもの表現を支えるために、表現に関する知識・技能・表現する力を身につけること、について学びます。

子どもの表現を理解し、
子どもの表現を育むため
の指導について学ぶ

- ・子どもの表現から読み取り
- ・発達の理解
- ・子どもの表現を支える方法



表現に関することを
学ぶ

- ・表現に関する知識
- ・表現に関する技能
- ・表現力を身に付ける

など

2

フリスビーを作りながら
遊びを考えてみましょう！

“

材料：新聞紙、クリップ、
セロテープ、
ビニールテープ、
画用紙、サインペン、
はさみ



3

Q1 この棒でどんな遊びができますか？
ひとりでの遊び、グループでの遊びなど考えて、
遊んでみましょう。



4

Q2 この輪を使って、どんな遊びができますか？
ひとりでの遊び、グループでの遊びなど考えて、
遊んでみましょう。



5

Q3 できあがったフリスビーは、新聞紙を変えたら
飛び方はどのように変わるとおもいますか？

Q4 どうしたら、高く、長く、飛ばせますか？

Q5 フリスビー以外に、どんな遊びができますか？

6

まとめ

- つくる過程、出来がったフリスビーの形から見立てて、遊びを広げてみましょう。
- 素材そのものを変えたり、大きさや厚さを変えると、フリスビーとしての飛び方に変化があるのか確認してみましょう。
- 子どもが作るとき、遊ぶときに、どのようなこと（特に安全性）に留意する必要があるか考えてみましょう。

7

8

No. 6

特別な支援の必要な子どもへの
臨床発達心理学からの保育支援
—疑似体験を通して多様性について考えよう—

國學院大學
野澤純子

9

さくら保育園の様子

さくら保育園では、運動会に向け、子ども達が園庭で開会式の練習をしています。

子ども達のなかには、少し様子が気になる子ども達がいるようです。

発達をつまづき

何らかの発達をつまづきがある
どうしたらよいか？

■ 支援の必要な子どもの状態をとらえる際の視点

- ☆ 保育を取り巻く状況から考える
- ☆ 障害の特性を知る

11

保育の場を取り巻く状況

制度的要因
<園や施設等の制度、巡回相談や研修制度など>

保育・幼稚園の状況

体制的要因、物理環境的要因、保育活動的要因

クラスの状況

かかわり

保育者

障がい児・
気になる子

要因
<経験・知識・技能>

<配慮> <性格>

要因
<障害種・程度・人数>

<行動特徴・人数>

他児

<関わり方、態度、人数>

図1. 障がい児保育に影響する状況要因(園山, 1994を改定)

つまづきへの支援 A児の場合

知的障害を伴う自閉スペクトラム症児(5歳)

●給食時、挨拶前につまみ食いをする。

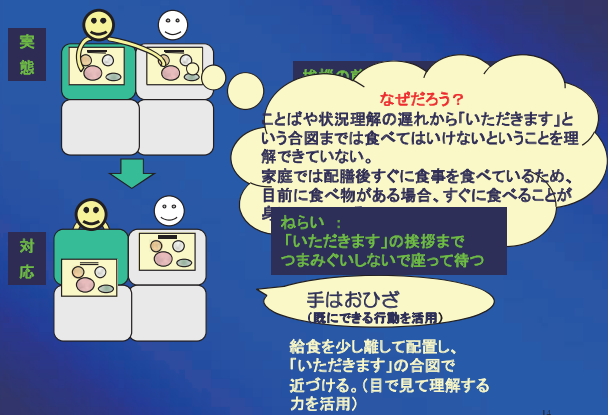
考え方 **なぜ つまづいているのか？**

子どもの持っている力は？

保育の場でできる方法は？

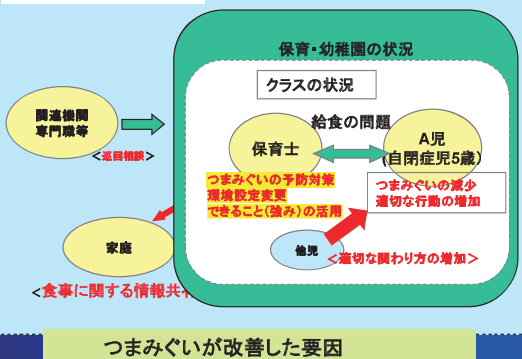
+ 障害の特性は？

13



14

保育の場を取り巻く状況



見えにくさのある子ども達

視覚障害のある子どもの他にも...

・ 肢体不自由、ダウン症候群、発達障害のある子ども など

疑似体験—見えにくさの体験—

1. 弱視眼鏡を作ろう
2. いろいろ体験してみよう
3. グループで話し合おう

練習したり、少し手伝ってもらったり、環境を整えることができること、を考えよう。

環境を整える 例：ぬり絵

はみ出してしまう 輪郭を見やすくする → できる



達成感を味わう、褒められ自信がつく

→主体的行動増加、
自己有能感や自己肯定感向上につながる

障害のとらえ方

現在の捉え方

障害というものを多面的に捉え、
プラス面にも視点をあてるようになってきた

障害のある人が、様々な支援を利用して、
少しでも社会参加が進むような支援へ。

みなさんは、障害によるハンディを乗り越えるためのどのような支援ができるでしょうか？

遊びは 学び

～自然遊びがなぜいいのか～

國學院大學 青木 康太朗



子どもの生活の中心は遊びであり、

子どもは**遊び**を通して**学び**、**成長**していきます。

とりわけ…

幼児期の**自然遊び**は心身の健やかな成長において

欠くことのできない大切な**経験**になります。

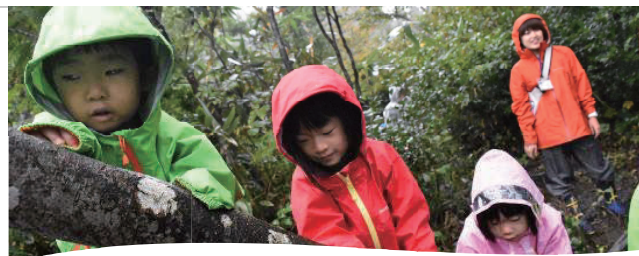
自然は子どもの感性を刺激する

自然には…

- ✓ 人間にはまねのできない造形の美しさや魅力があり、生物の営みは神秘的で、科学では説明できない不思議や驚きにあふれています。
- ✓ 幼児にとっては、身近にあるささやかな自然であっても、はじめて目にするものも多く、「これ、なに?」「すごくきれい!」「なんで、こうなるの?」「これ、やってみたい!」など、**幼児の遊び心をくすぐり、好奇心や探究心を刺激する素材が豊富にあります。**



身近な環境にある様々な物事に目を向け、**好奇心や探究心をもって自ら関わるようになる**ことはその後の**学ぶ力**につながってきます。
幼児期の**自然遊び**は豊かな人間性をはぐくむだけでなく、**小学校以降の学習の土台づくり**にもなっているのです。



自然遊びができない!

- ✓ 今の幼児の遊びや生活をみていると、昔なら当たり前に行っていた、大きな木に登る、虫を捕まえる、土や砂にふれる、草花を摘む、夕日を見て感動するといった**自然にふれたり、感じたりする経験が少なくな**ってきています。
- ✓ 自然の中での遊び方を知らず、興味がない保護者の家庭では、**自然よりも街に出かけて過ごすことが多く**、子どもが**自然の中で遊びたい**と思っていても、そうした機会に恵まれないことも少なくありません。

大自然に 行かないといけないの?

幼児と一緒に自然遊びをする場合、無理して大自然に行く必要はない

近所の公園や広場など、身近にある自然の中で、走り回ったり、木登りをしたり、花摘みをしたりしながら、**自然に触れる機会をたくさんもつ**ことが大切

自然の中で遊び慣れていない子どもは、はじめての大自然より、**遊び慣れた身近な環境のほうが安心してのびのびと遊ぶ**ことができる



大自然に 行かないといけないの?

幼い頃は、

日差しの暖かさや風の冷たさ、木の温もり、花の香りなどを肌で感じることで**五感が刺激され、豊かな感性が養われていく。**

自然の不思議さに気づき、素朴な疑問をもつことで**好奇心が高まり**、物事に対する**探究心**が芽生えてくるようになる。

幼児期はこうした**心動かされる体験**を重ねることが大切です。



知ることは、 感じることの半分も重要ではない

子どもたちが会える事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、**さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐむ肥沃な土壌**です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。



美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知のものに触れたときの感激、思いやり、哀れみ、賛嘆や愛情などの**さまざまな形の感情がひとたび呼び覚まされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。**そのようにして**見つけた知識は、しっかりと身につき**ます。

レイチェル・カーソン(上通恵子訳)「センス・オブ・ワンダー」(1996)



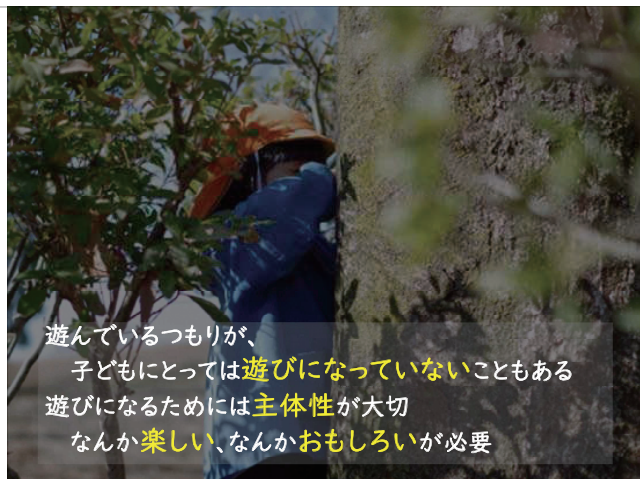
こどもに・・・

「**なんで、綿毛はふわふわしてるの?**」
と聞かれたら、みなさんはどう答えますか?

正しい知識を学ぶことも大切ですが、幼い頃は「**自分なりの答え**」を見つける経験を**する**ほうが大切。そうした経験の積み重ねが、**好奇心や探究心**をはぐくみ、その後の**学ぶ力の土台**となっていくのです。



遊んでいるつもりが、
子どもにとっては**遊びになっていない**こともある
遊びになるためには**主体性**が大切
なんか**楽しい**、なんか**おもしろい**が必要



子どもと一緒に自然遊びをするときは・・・

- ✓ 子どもと一緒に**楽しむ!**
- ✓ 子どもの楽しいという気持ちに**共感する!**
- ✓ 子どもに楽しむ姿を**見せる!**



気をつけてほしいこと・・・

- ✓ 子どもの楽しい、おもしろい、不思議を**否定しない!**
- ✓ すぐに答えを出そうとしたり、**教えたりしない!**
- ✓ 危ないこと、汚いことを何でも**禁止しない!**



人づくりの基礎を培う幼児教育

幼児教育は・・・

子どもの基本的な生活習慣や態度を育て、道徳性の芽生えを培い、学習意欲や態度の基礎となる好奇心や探究心を養い、創造性を豊かにするなど、小学校以降における**生きる力**の基礎や生涯にわたる**人間形成**の基礎を培う上で重要な役割を担っている。

幼児教育・保育の仕事の魅力は、
子どもの**成長**を日々身近で感じられること

将来、子どもの**笑顔**あふれる職場で、
働いてみませんか?



体験授業の様子(一部抜粋)



No. 2 「小1プロブレム解消」

1



上 : No. 3 「保育ってなあに?」



右 : No. 4 「食を中心に」



No. 5 「創造的な遊び
—つくる・遊ぶ・考える—」

3



No. 6 臨床発達心理学
からの障害児保育



4



No. 7 「遊びは学び」



5

子どもの心理学

國學院高等学校 模擬授業

人間開発学部 子ども支援学科
結城 孝幸

心理学は何をしているのか？

前提1：心の中は直接はのぞくことはできない

- 「科学」としての心理学は、証拠（＝知覚可能な現象）にこだわる
- 行動やコトバ、表情、しぐさ、生理反応をデータ（証拠）として採用する

前提2：一般化可能な出来事か検証を行う

- どういう状況（時、場所、文脈）でそのような行動等が出現したのか（これを心理学では、「観察」という）
- その状況を再現すれば、大多数の人におなじ行動等が出現するのか（これを心理学では、「実験」という）

心理学は何をしているのか？

心理学は、人がある行動（内的反応も含む）を行うとき

- ①それがどのような状況との関係で生じたのか？
- ②その状況をどのように処理したのか？



を明らかにし、「心」の機能・構造をモデル化する学問である。

これを応用したのが、「A I（Artificial Intelligence=人工知能）」

頭がよいとはどういうことか

▶ 知能

「知能」は、「知識」とは違う

知能は新たな状況に出くわしたときに、適切な問題解決ができる能力のこと
思考力とか判断力とかに近いもの
思考するためには、それまでの経験も必要だから、「知識」も必要
知識は経験によって蓄積されるものだから、知識だけでは、「新たな状況」に対しては、対応できない

頭がよいとはどういうことか

▶ 知能

「知」はその生体が生きる環境に応じて、進化してきた
適応が求められる環境が複雑になるにつれて、必要とされる「知」も複雑になる
人間の場合、適応が求められる環境を人間自身が作りだしてきた
それは「社会」「文化」であり、環境への適応の道具でありつつも、人はそれを使いこなすよう「知」を形成しなければならない。
さらに、それはまだ不完全であり、それ自体の中にも

デフレからどうしたら脱却できるのか？

世の中から病気をなくすることは可能か？

世界から貧困をなくすには？

戦争はなぜおきるのか？

子どものものの考え方

子どもには子どもなりの思考の論理がある

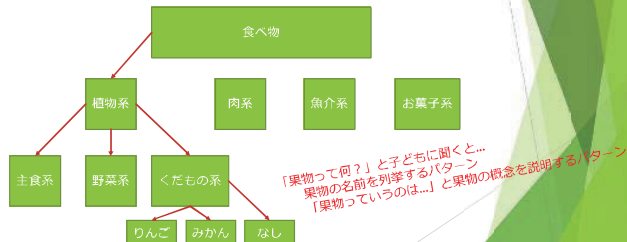
それが、徐々に大人の様式（考え方）に変化していく

幼児は幼児なりの理屈で、考えてしまう

徐々に、教えられたり、経験したりして「おかしさ」に気づく
小学生ぐらいから、徐々に自分なりの考え方が、現実に対応しているかどうか自分で考えはじめる。

子どもの知性

▶ 「概念」を使えるかどうか（幼児には教えられていない原理）



知的活動の発達

大人の言葉や記号を使って考えることができる知性は、一夜にして完成したわけではない。
子どものころから徐々に変化していく

では、どのように変化していくのか？

教えられれば、できるようになるのか？

ただ、覚えてただけだと全く同じ問題ならできるけど、
ちょっと内容をいじったらとたんにできなくなるでしょ
それは「できるようになった」「わかった」とは言わない

知的活動の発達

大人は、言葉や記号を使って考えることができる（形式的操作）
記号をつかった論理的な操作
でも、ちょっと難しい問題だと、図に表したりする（具体的操作）
図などをつかって論理的に考える
物事の特徴を抽象化・概念化する力も必要
問題を図にできるためには、イメージが必要（表象的思考）
でも、イメージに引きずられてしまうときもある
両足で立った時が重い？ 片足で立った時が重い？
イメージのもとには個々の体験（感覚運動的思考）
いろいろ試した経験が表象として残っていく

子どもの心理学を学ぶおもしろさ

哲学的な問いに科学的に回答を導き出せる

「今の自分に、どうやってなったのだろう？」

しゃべったり、考えたり今はできるけど
赤ちゃんは、今の自分ができることができない。
じゃあ、どうやって、そうやってきたんだろうか？

これが、わかってくると、子育てや教育にもだいぶん応用が利く

子どもの心理学を学ぶおもしろさ

応用科学的な興味関心としては

生成 A I の発展に貢献する

人の子どもが学ぶ・考える（知の生成・発達）の問題の基礎研究
自ら育つ A I の開発
プログラム通り（教えられた通り）に動く A I はもう古い
なぜ、人の発達効率よく、直線的にならないのか？
自立的な思考ができるためには、回り道の経験も必要

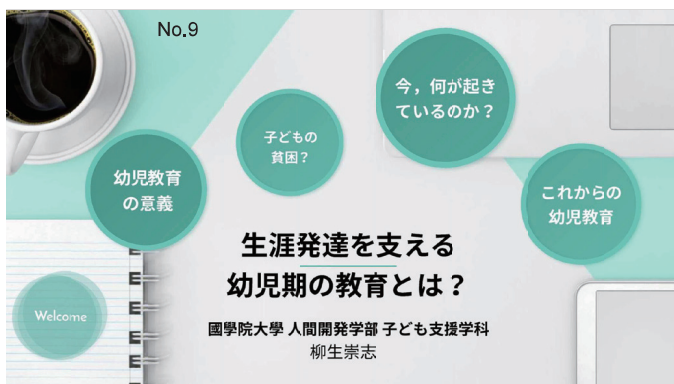
文献

入門編

- ▶ 長谷川寿一 「はじめて出会う心理学」 有斐閣アルマ （2008）
- ▶ 波多野完治・滝沢武久 「子どものものの考え方」 岩波新書 （1963）
- ▶ 波多野完治・福嶋佳世子 「知力の発達」 岩波新書 （1977）
- ▶ 滝沢武久 「子どもの思考力」 岩波新書 （1984）
- ▶ 矢野喜夫・落合正行 「発達心理学への招待」 サイエンス社 （1991）
- ▶ 新井紀子 「AI vs 教科書が読めない子どもたち」 東洋経済新報社 （2018）

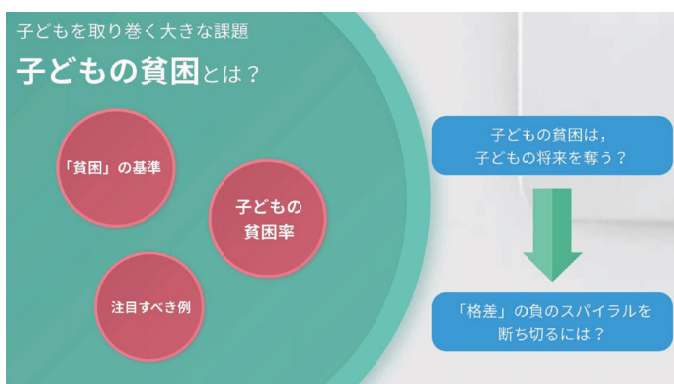
発展編

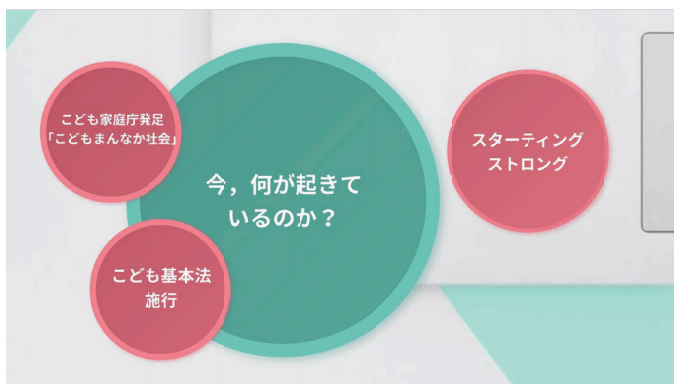
- ▶ 福嶋佳世子・波多野完治 「子どもの概念発達と変化」 共立出版 （2005）
- ▶ 外山紀子 「生命を理解する心の発達」 ちとせプレス （2020）
- ▶ 波多野完治 「ピアジェの発達心理学」 国土社 （1965）



幼児教育・保育の 意義，役割

01. 養護と教育の一体的展開
02. 生涯発達の基盤をつくる
03. 子育てコミュニティの形成





我が国の幼児教育(行政)の大転換

1. 保育所 ≒ 幼稚園 ≒ 認定こども園
= 幼児教育機関, 幼児期の教育を行う施設
2. 幼児教育の価値を見直す・高める
同じ投資額なら効果の大きさは…
幼児 >>> 大人 (OECD, ECEC)
OECD (経済開発協力機構: Organisation for Economic Co-operation and Development)
ECEC (Early Childhood Education and Care)
3. 幼児教育の質を徹底的に高める
「社会情動的スキル (非認知能力)」をどうやって育むか

社会情動的スキル

三歳児神話の崩壊

もっともっと子どもに投資!

0歳から質の高い保育を

1. 子どもの学力の「伸び」, 社会的成功
 - 1位 0歳から質の高い保育を受けた子ども
 - 2位 家庭で過ごす期間が長かった子ども
 - 3位 質の低い保育を受けた子ども
2. 貧困による制約
貧困の家庭ほど、質の高い保育を受けた時の伸び方、回復の度合いが大きい!
= 潜在的な能力

三歳児神話の崩壊

ベリール学前教育プロジェクト

質の高い幼児教育を受けた子どものその後は?

Heckmanによる研究 (1962~実施)

- ・ 社会情動的スキルを育む教育内容
- ・ 少人数 (6:1)
- ・ 毎日の教育と週末の家庭訪問
- ・ 約40年の縦断研究 etc.

結果

以下の点で、教育を受けた子どもの方が優れていた

- ・ 経済力 (雇用率, 年収, 自家用車, 住宅等)
- ・ 学力 (IQ, GPA, 高校卒業率等) *ただしIQの優位性は小学生で消失
- ・ 社会性 (結婚, 男性の子育て関与等)

幼児期の教育コスト 1\$
↓
リターン 12\$



幼児教育のあるべき姿

01. 就学の準備の本質は
触頭よりも
生涯発達を支える土台づくり
⇒ 社会的情動スキル
02. 遊びと勉強を分けたい
⇒ 遊びから全てを学ぶ
03. 他者 (保育者・養育者・友達) と共に育つ

(3) 体験授業のアンケート結果

1) 調査の概要

本調査は、高校生を対象とした職の魅力発信として、本学教員による幼児教育の重要性、保育職の魅力、進路選択に役立つ情報提供に関する体験授業を行い、その成果として受講者の理解度、興味の変化を明らかにすることを目的とした。

調査期間は令和5年7～12月とし、調査方法は自記式の調査票を用いた集合法とした。調査時期は体験授業後とし、体験授業を受講した627名（男子161名、女子453名、回答したくない9名、無回答4名）の高校生（1年生185名、2年生261名、3年生179名、無回答2名）から回答を得た。

主な調査内容は、体験授業を通じた「子どもや子育てへの興味や関心の深まり」や「保育職に対するイメージの変化」「保育職への興味や関心の深まり」「保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり」「保育・幼児教育系の学部学科への進学意向」、体験授業に対する感想等とした。

2) 主な調査結果

体験授業による保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化や体験授業に対する感想は以下の通りである。各調査結果については、単純集計のほか、保育・幼児教育関係への進学を希望する生徒（127名）と希望しない生徒（425名）でのクロス集計も加えて行った。

ア. 体験授業による保育・幼児教育に対する理解や興味等の変化

（子どもや子育てへの興味や関心の深まり）

体験授業を受け、「子どもや子育てについて興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は93.6%で、ほとんどの生徒が体験授業を通じて子どもや子育てへの興味や関心が深まったことが分かった。

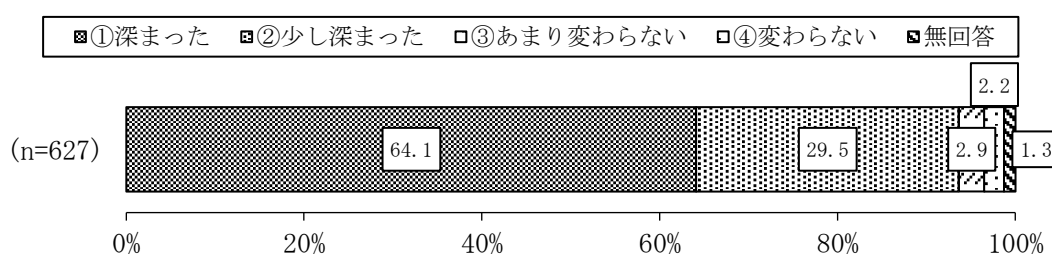


図2.1.1 子どもや子育てへの興味や関心の深まり

保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（89.0%）と希望しない生徒（57.4%）で大きな差がみられたが、「少し深まった」を合わせると、いずれも9割を超えることから、進学希望の有無にかかわらず、体験授業を通じて子どもや子育てに対する興味や関心が深まったことが分かった。

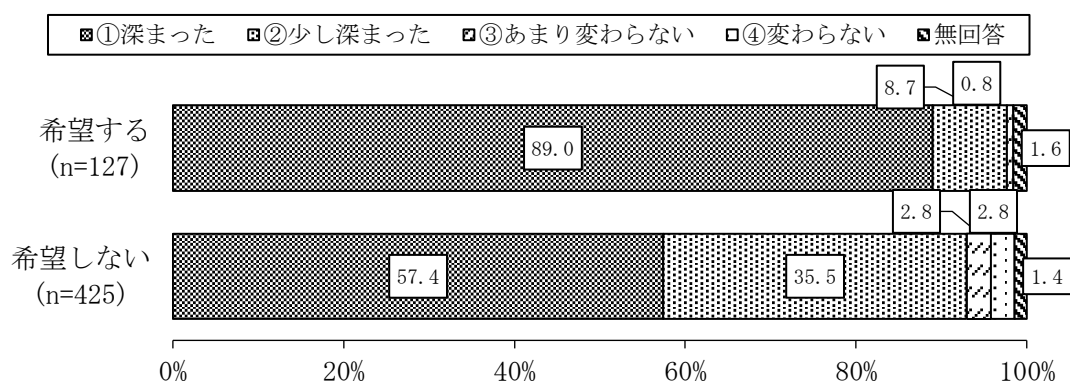


図2.1.2 保育・幼児教育への進学希望別 子どもや子育てへの興味や関心の深まり

（保育職に対するイメージの変化）

体験授業を受け、「保育職（幼稚園や保育所の先生）に対するイメージが変わったか」と尋ねたところ、「変わった」「少し変わった」と回答した生徒は78.1%で、8割弱の生徒が体験授業を通じて保育職に対するイメージが変わったことが分かった。

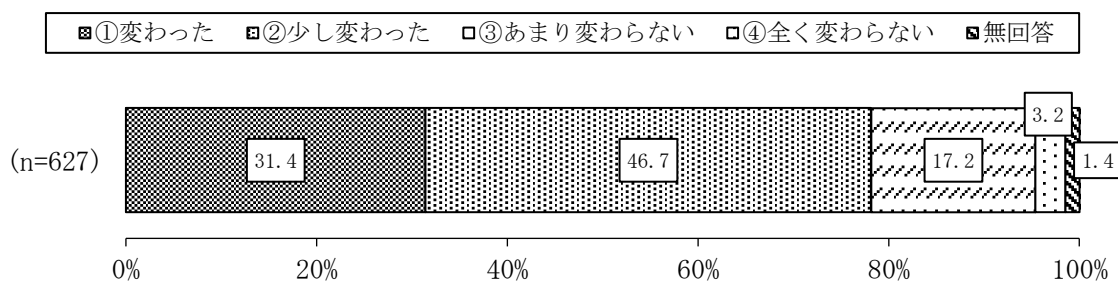


図2.1.3 保育職に対するイメージの変化

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「変わった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（41.7%）と希望しない生徒（27.5%）では大きな差がみられたが、「少し変わった」を合わせると、希望する生徒は81.1%、希望しない生徒は76.4%が変わったと感じていることから、進学希望の有無にかかわらず、7割以上の生徒は体験授業を通じて保育職に対するイメージが変わったことが分かった。

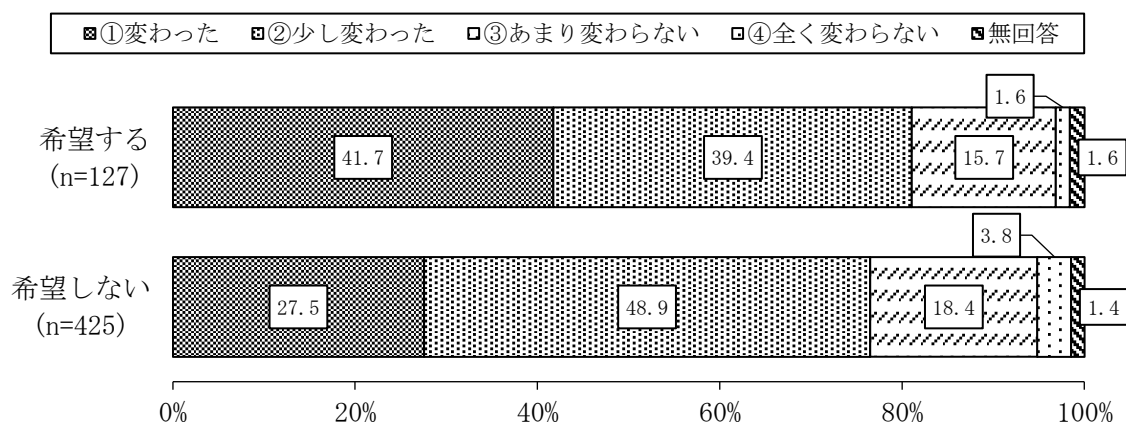


図2.1.4 保育・幼児教育への進学希望別 保育職に対するイメージの変化

(保育職への興味や関心の深まり)

体験授業を受け、「保育職（幼稚園や保育所の先生）について興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は80.3%で、およそ8割の生徒が体験授業を通じて保育職への興味や関心が深まったことが分かった。

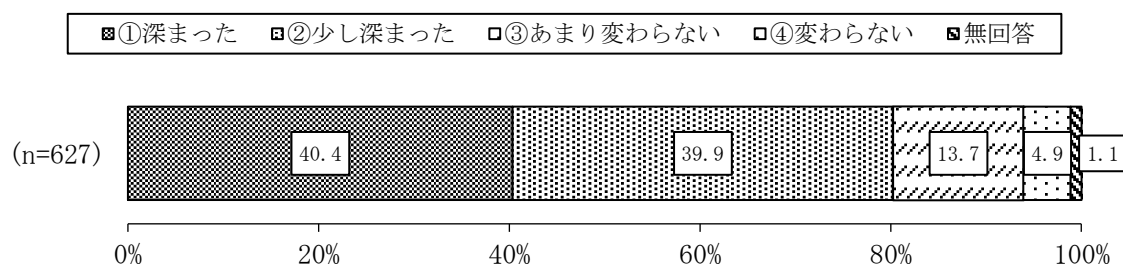


図2.1.5 保育職への興味や関心の深まり

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（81.1%）と希望しない生徒（28.5%）では50ポイント以上の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、体験授業を通じて保育職に対する興味や関心が深まっていることが分かった。しかし、「少し深まった」を合わせると、希望しない生徒でも74.4%が深まったと感じていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、7割以上の生徒は体験授業を通じて保育職に対して興味や関心が深まったことが分かった。

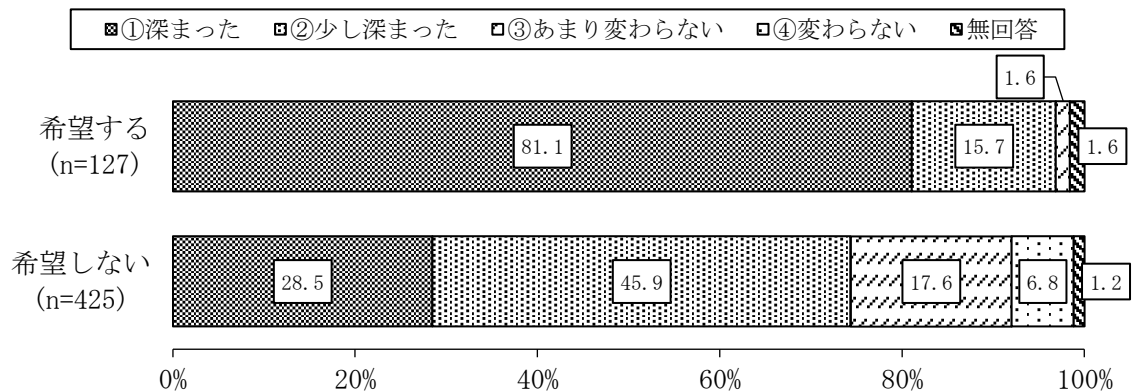


図2.1.6 保育・幼児教育への進学希望別 保育職への興味や関心の深まり

(保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり)

体験授業を受け、「保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心が深まったか」と尋ねたところ、「深まった」「少し深まった」と回答した生徒は77.0%で、8割弱の生徒が体験授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に興味や関心が深まったことが分かった。

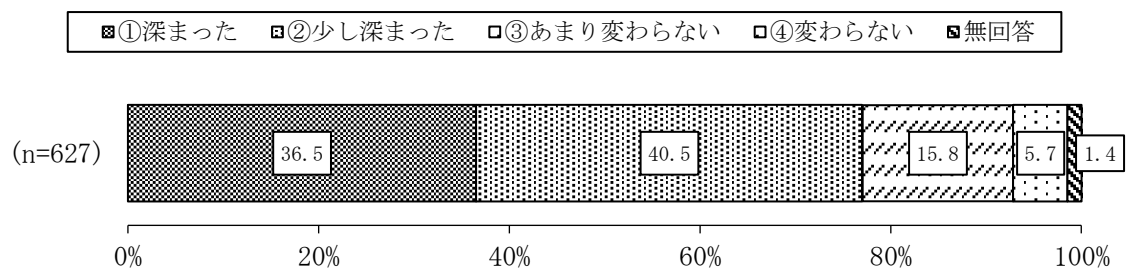


図2.1.7 保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心の深まり

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「深まった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（75.6%）と希望しない生徒（26.4%）では50ポイント弱の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、体験授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心が深まったことが分かった。しかし、「少し深まった」を合わせると、希望しない生徒でも71.1%が深まったと感じていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、7割以上の生徒は体験授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科の教育内容に対する興味や関心が深まったことが分かった。

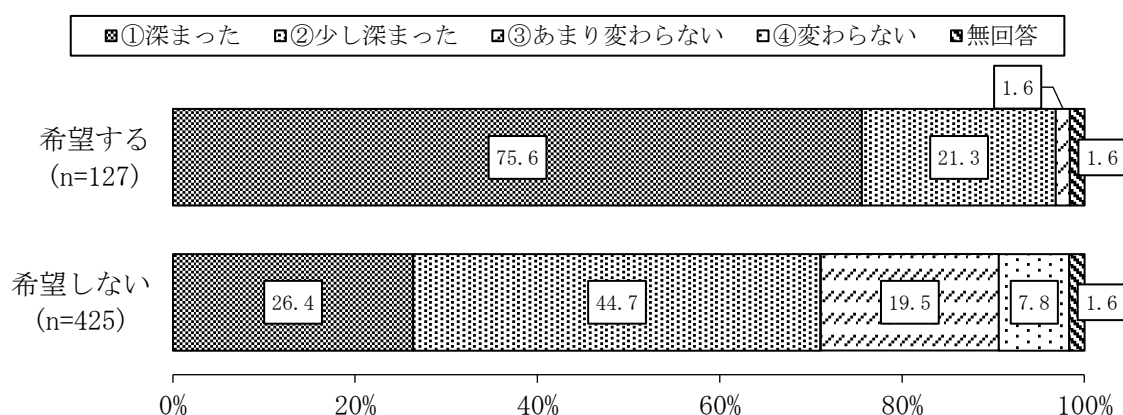


図2.1.8 保育・幼児教育への進学希望別 保育・幼児教育系の学部学科の
教育内容に対する興味や関心の深まり

(保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向)

体験授業を受け、「保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うか」と尋ねたところ、「そう思う」「少しそう思う」と回答した生徒は43.7%で、半数程度の生徒が体験授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思っていることが分かった。

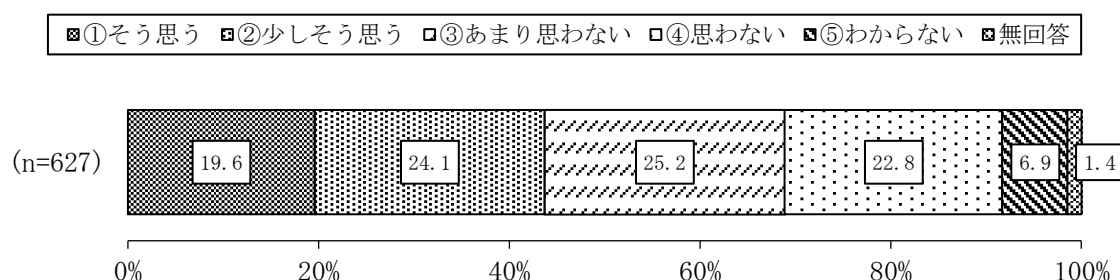


図2.1.9 保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「そう思う」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（76.4%）と希望しない生徒（4.2%）では70ポイント以上の差がみられ、保育・幼児教育への進学を希望する生徒ほど、体験授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科への進学先したいという思いを強くしていることが分かった。しかし、「少しそう思う」を合わせると、希望しない生徒でも28.4%が保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思っていることから、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、3割弱の生徒は体験授業を通じて保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになることが分かった。

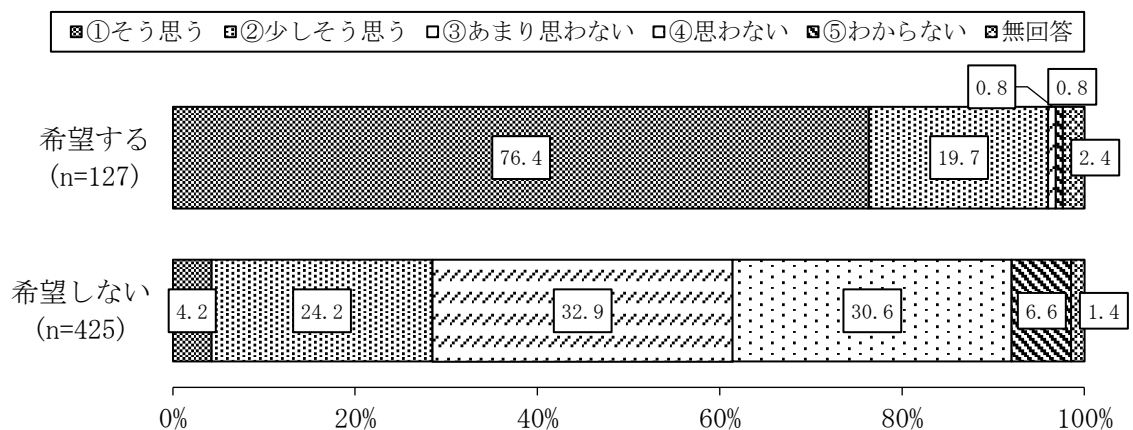


図2.1.10 保育・幼児教育への進学希望別 保育・幼児教育系の学部学科への進学の意向

イ. 体験授業に対する感想

体験授業について関心をもったかどうか尋ねたところ、「関心をもった」「少し関心をもった」と回答した生徒は96.2%で、ほとんどの生徒が体験授業を通じて体験授業の内容に関心をもったことが分かった。

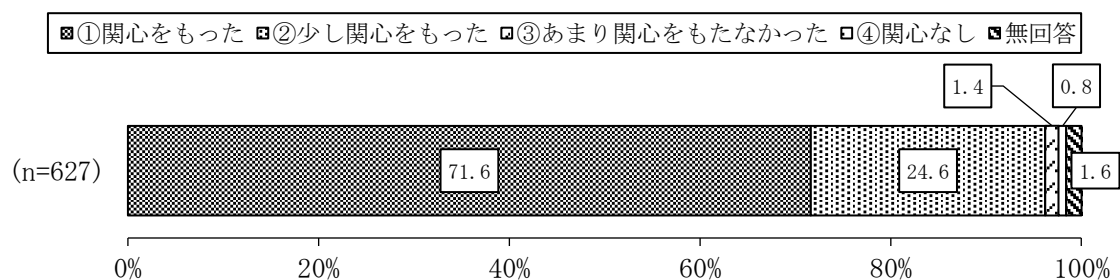


図2.1.11 体験授業への関心

そこで、保育・幼児教育への進学希望別に「関心をもった」と回答した割合を比較してみると、希望する生徒（89.8%）と希望しない生徒（66.1%）で大きな差がみられたものの、「少し関心をもった」を合わせると、いずれも9割を超えることから、進学希望の有無にかかわらず、ほとんどの生徒が体験授業の内容に関心をもったことが分かった。

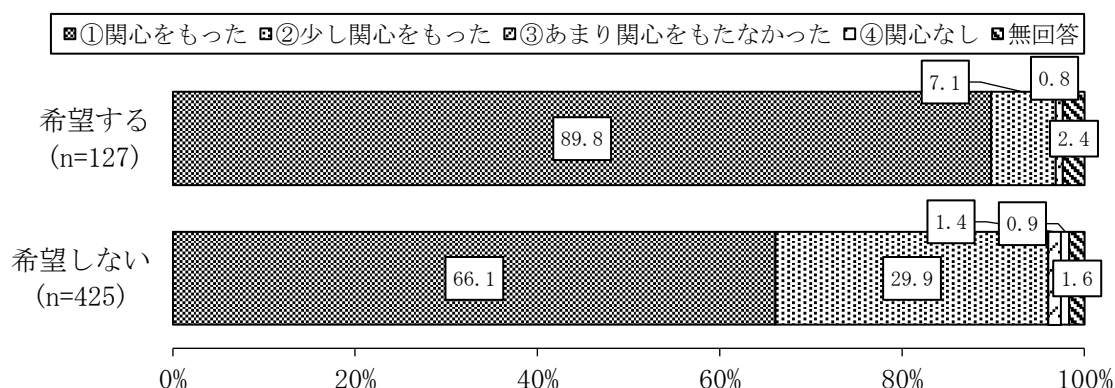


図2.1.12 保育・幼児教育への進学希望別 体験授業への関心

＜体験授業の主な感想＞

- ・ 保育は子どもの成長を身近に見ることができ、子どもと接することで自分自身も成長できることを学びました。保育士は、責任の重さを感じることもあるけれど、子どもと接する中で、やりがいを感じられたり、子どもの不思議な考えを見ることができると知りました。今回の講話を聞いて良かったです。
- ・ 保育士の方は全員が楽しむためにはどのような声かけをしたらよいかなどをその場ですぐに対応しなければならないので考えるのが少し難しそうだなと思いました。でも、子どもに強制するのではなく、子どもがやりたくなるような声かけをしたらよいと知り、保育職はすごいなと思いました。
- ・ 今回、食についてのお話をさせていただいて、子どもの食育の大切さを学ぶことができました。鈴木先生のお話は非常に聞いていて楽しい話ばかりでした。将来、保育士として働く日がくるのなら、子どもたちに食の大切を伝えられたらいいなと思いました。
- ・ 新聞紙二枚でこんなに楽しく色々形が変わってできるのは、すごいし、楽しかったです！小さい子でも簡単にできて、やっぱり先生になるには発想が大事なのと、簡単で楽しく作るのが大事だなと思いました！
- ・ 障害がある子の「できない」ことではなく、「できる」ことから考えて成長を支えるということは難しいが、やりがいがある仕事だなと思いました。弱視のメガネを体験して、想像以上に見えないと気づきました。このような人々が生活しやすい環境を私たちが作っていくことが大切だなと思いました。
- ・ 進路で、保育について考える機会が増え、「小学校の学習意欲の低さ」という問題について調べていたので、今日の授業は自分の調べていたこととリンクしたり、逆に自分の持っている価値観に当てはめて固定観念をもっていたことに気づかされました。私は、「一人一人に合わせた保育」をすることが目標なので、今日の授業をうけ、子どもたち

の能力を高められる保育者になりたいと改めて思いました。

- ・初等教育にとっても興味をもっていて、特に小学校の時に感じた学びを深めることの楽しさを忘れられずにいました。今回は幼児教育系の話を聞いて、改めて学ぶことは、感じる→気づく→学ぶというプロセスがあったんだなと気づくことができました。とても良い経験になりました。
- ・私は教師となって多様性を尊重し、子ども一人ひとりの自律を促すサポートをしていき、主体性を大切にしていきたいと考えていました。そのため、まさに主体性を特に重要視した学びが良いということを知り、よりそのような教師になりたいと感じました。また、教師のあり方が時代とともに、変化し、現在のような一斉授業ではなく、自分たち自身から学んでいきたいという意欲を大切にした授業をしていきたいと考えています。私は未来の日本を担っていく子どもたちを育成していこうと思います。
- ・私の母が保育士として働いていて、特にグレーの子（自閉症の疑い、症状がある子）をつきっきりでサポートしているそうです。私は以前までは、なぜもっと直接的なサポートをグレーの子全員にしてあげないのかなど、少し遠回りでサポートをしている母に疑問をもっていました。でも、今日話を聞いて、できないことができるように、本人ではなく、周りを変えて本人のできることを増やしていたのが分かってすごく納得しました。母の話では、子どもと親の理解の差や事例でもあったように、家庭での生活状況の問題が一番時間がかかると言っていたので、現場で遠い目標を見据えて取り組んでいるのが簡単なことではないと分かったので、保育者という仕事に対してイメージが変わりました。

3) まとめ

本調査の結果、高校生を対象に幼児教育の重要性や保育職の魅力、進路選択に役立つ情報提供に関する体験授業を行うことで、子どもや子育てに対する興味・関心が深まり、保育職のイメージにも変化があることが分かった。さらに、体験授業を通じて保育や幼児教育について学びを深めることで、保育職や保育・幼児教育系の学部学科に対する興味・関心が高まり、進学先として考えたいと思うようになる生徒がいることも分かった。

こうした体験授業の成果は、保育職を希望する生徒ほどみられたが、保育・幼児教育への進学を希望しない生徒であっても、保育職に対する興味・関心が高まったり、保育・幼児教育系の学部学科を進学先として考えたいと思うようになったりする生徒が一定数いることも分かった。

以上のことから、高校生に保育職の魅力を伝え、将来の保育者の芽を育んでいくためには、高大連携の観点から保育・幼児教育に係る体験授業を積極的に取り組んでいくことが大切であることが分かった。

2. 高校生を対象とした保育職に対する意識調査（ウェブ調査）

（1）調査の概要

本調査は、保育職の魅力向上に資する基礎的情報を得るため、高校生の保育職への興味・関心や保育職に抱くイメージ、将来の就職希望等の実態を把握することを目的とした。

調査方法はインターネットを利用したウェブアンケート調査とし、調査期間は令和6年1月5日(金)～1月9日(火)の5日間とした。調査対象は、調査会社にモニター登録している高校生1,000人で、回答者の内訳を性別でみると、男子186人、女子785人、回答したくない29人となっており、学年でみると、1年生340人、2年生365人、3年生294人、その他1人となっていた。

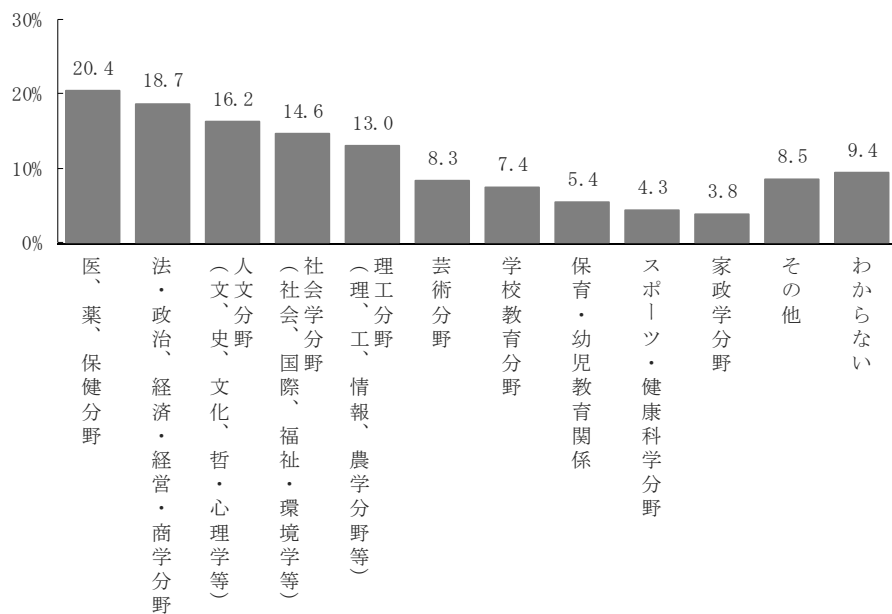
主な調査内容は、「卒業後の進路」や「保育職との関わり」「保育職に対する意識」「保育職の魅力をも高める工夫や取組」等とした。

（2）主な調査結果

1）卒業後の進路

ア．進学を希望する学部

進学を希望する学部を尋ねたところ、「医、薬、保健分野」（20.4%）と最も高く、次いで「法・政治、経済・経営・商学分野」（18.7%）、「人文分野（文、史、文化、哲・心理学等）」（16.2%）と続き、「保育・幼児教育関係」は5.4%であった。



(n=847)
※降順並び替え

図 2.1.13 進学を希望する学部（複数回答）

イ. 将来なりたい職業

将来なりたい職業を尋ねたところ、「公務員」(8.4%)が最も高く、次いで「会社員」(7.7%)、看護師(6.2%)と続き、「保育士・幼稚園教諭」は3.6%であった。

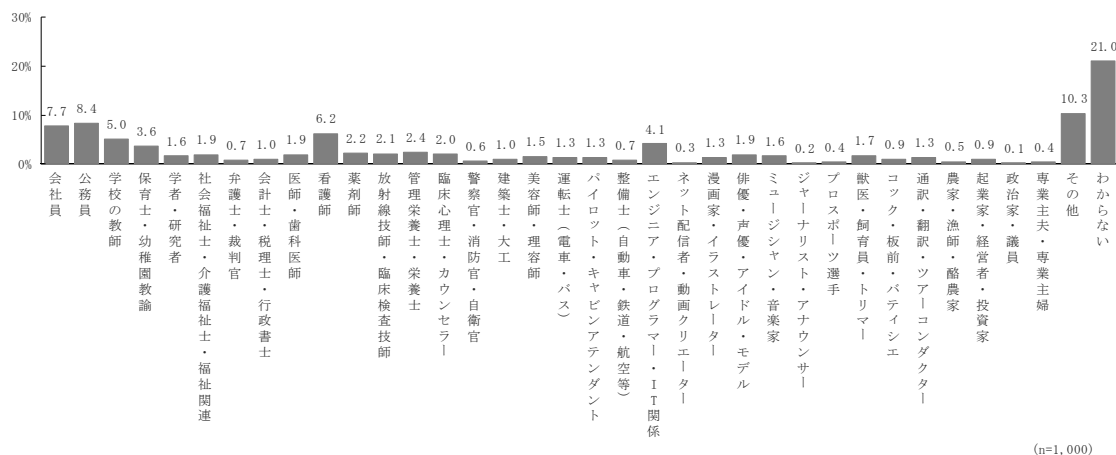
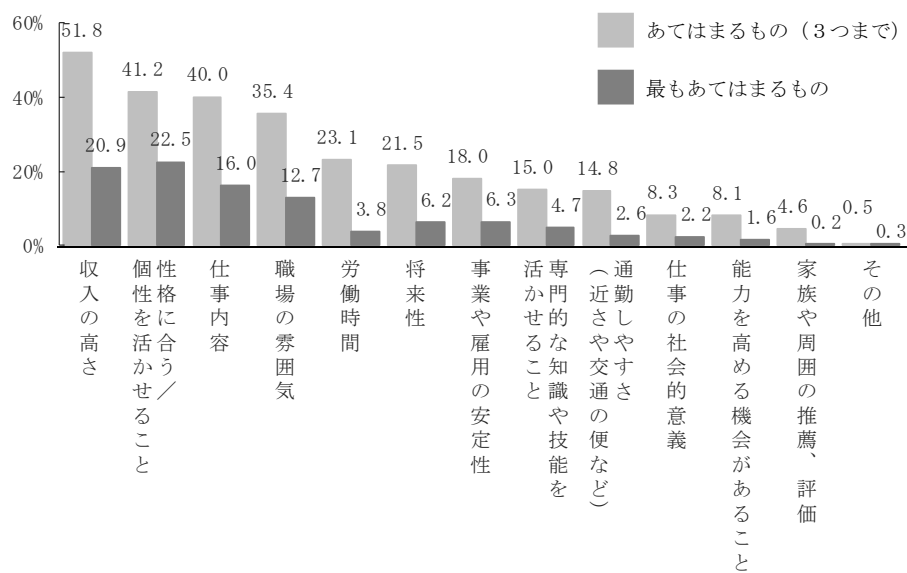


図 2.1.14 将来なりたい職業

ウ. 職業を選ぶときに重視すること

職業を選ぶときに重視することを尋ねたところ、「収入の高さ」(51.8%)が最も高く、次いで「性格に合う／個性を活かせること」(41.2%)、「仕事内容」(40.0%)等であった。

このうち、最も優先順位の高い項目をみると、「性格に合う／個性を活かせること」(22.5%)や「収入の高さ」(20.9%)が高くなっていた。



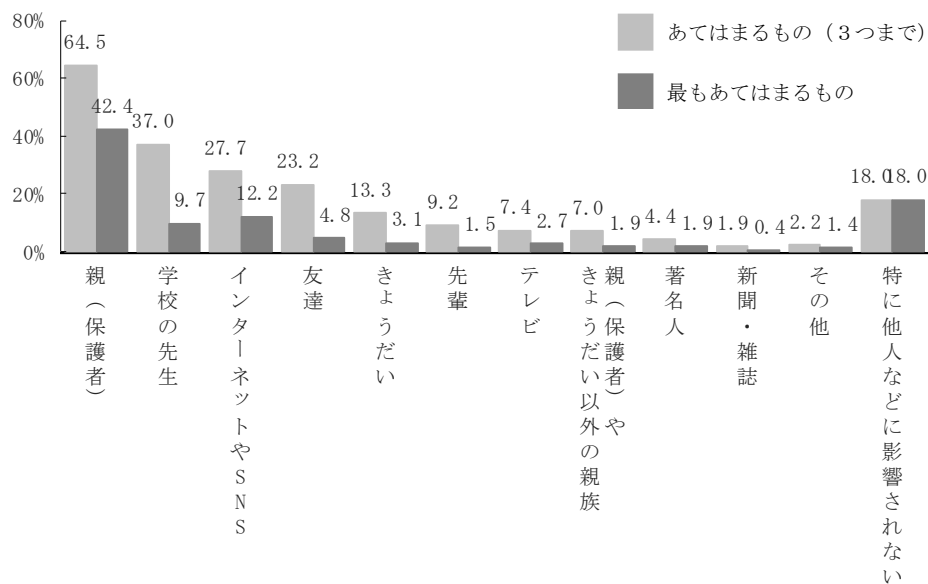
※「あてはまるもの (3つまで)」の値を基準に降順並び替え

図 2.1.15 職業を選ぶときに重視すること

エ. 進路を考えたり決めたりする際に影響を受けるもの

進路を考えたり決めたりする際に影響を受けるものを尋ねたところ、「親（保護者）」（64.5%）が最も高く、次いで「学校の先生」（37.0%）、「インターネットや SNS」（27.7%）等であった。一方、「特に他人などに影響されない」も 18.0%と 2 割弱を占めていた。

そのうち、最も影響を受けるものをみると、「親（保護者）」（42.4%）が最も高く、次いで「インターネットや SNS」（12.2%）や「学校の先生」（9.7%）となっていた。



(n=1,000)

※「あてはまるもの（3つまで）」の値を基準に降順並び替え

図 2.1.16 進路について考えたり決めたりする際に影響を受けるもの

2) 保育職との関わり

ア. 幼稚園や保育所の先生の働く姿を実際に見た経験

中学生以降に幼稚園や保育所の先生の働く姿を実際に見た経験を尋ねたところ、「ある」と回答した高校生は 44.2%であった。

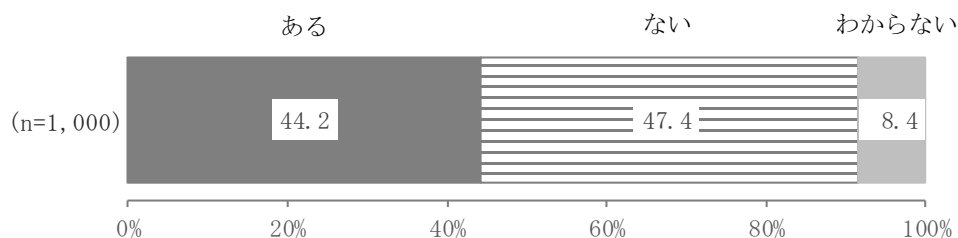


図 2.1.17 幼稚園や保育所の先生の働く姿を実際に見た経験

そこで、幼稚園や保育所の先生の働く姿を実際に見た経験が「ある」と回答した人に、どのような経験だったかを自由記述で尋ねたところ、「職場体験」や「家族・知人の送迎・行事」「通りすがり」に関する回答が多くみられた。

(主な自由回答)

○職場体験

- ・中1の保育所職場体験（女性、2年生）
- ・中2のトライやるウィーク（女性、3年生）
- ・高1の幼稚園職業体験（女性、2年生）

○家族・知人の送迎・行事

- ・弟の通っている幼稚園に迎えに行く時（男性、3年生）
- ・弟妹のお迎えや保育参観等に参加した（女性、3年生）

○通りすがり

- ・お散歩カーに園児を乗せた保育所の先生を見た（女性、1年生）
- ・通学路にある保育園の様子を通りすがりに（女性、2年生）

○その他

- ・中学校の家庭科の授業で、保育園に行って一緒に遊んだり、踊ったりした（女性、2年生）
- ・中2の保育園でのボランティア（女性、3年生）
- ・姉が幼稚園の先生をしているため、家でお遊戯会の服を作っているなど（女性、2年生）
- ・高校生になった時にみんなで先生たちに会いに行った（女性、2年生）

イ．職場体験で幼稚園や保育所に行った経験

学校の職場体験で幼稚園や保育所に行った経験を尋ねたところ、「ある」と回答した高校生は25.4%であった。

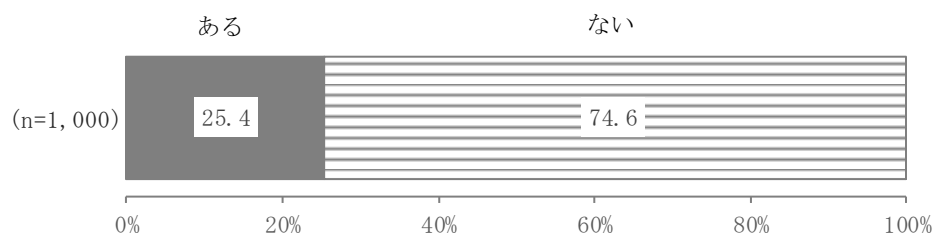


図 2.1.18 学校の職場体験で幼稚園や保育所に行った経験

次に、幼稚園や保育所での職場体験があると回答した高校生に、その感想を尋ねたところ、9割弱の高校生が「よかった」（50.0%）「まあよかった」（39.0%）と回答した。

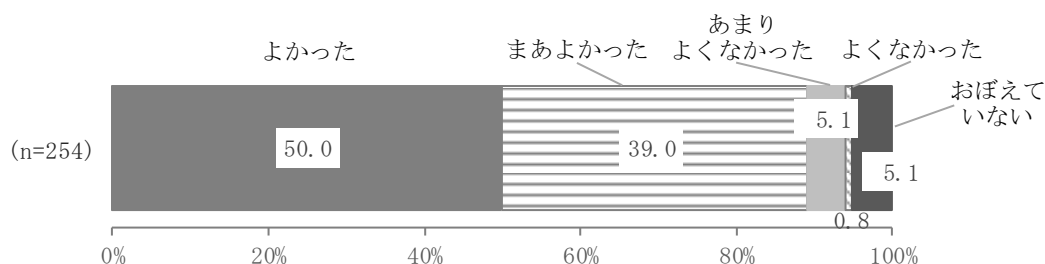


図 2.1.19 職場体験の感想 ※幼稚園・保育所での職場体験経験者ベース

そこで、職場体験の感想を自由記述で尋ねたところ、「よかった」「まあよかった」と回答した理由は、「楽しかったから」「子どもが可愛かったから」といった理由のほか、「大変さを知ることができたから」「学ぶことが多かったから」という理由が多くみられた。

一方、「あまりよくなかった」「よくなかった」と回答した理由は「忙しい」といったことが多かった。

(主な自由回答)

「よかった」「まあよかった」と回答した理由

○楽しかったから

- ・園児と遊べて楽しかったから（男性、1年生）
- ・楽しく園児たちと交流できたから（女性、3年生）

○子どもが可愛かったから

- ・子供が純粋で可愛らしく楽しかった（女性、2年生）
- ・園児が可愛かった（女性、2年生）

○大変さを知ることができたから

- ・園児と実際に触れ合うことで、保育士さんの大変さが身に染みて理解できた（女性、3年生）
- ・自分が幼少期の時にこんな仕事をしていたのかと大変さを知れたから！ 関心した！（女性、2年生）

○学ぶことが多かったから

- ・ただただ小さい子が好きで選んだ場所でしたが、奥が深く大変さもある所で色々なことが学びました（女性、3年生）
- ・実際に活動の準備や事務作業の内容などを知れたから。（女性、1年生）

○その他

- ・子どもたちを支えることで笑顔が見れて嬉しかったから（女性、3年生）

- ・子供の考え方、価値観を優先しつつ、成長させようと努力している保育士さんの姿が印象的だったから（女性、2年生）
- ・全体的に明るい印象を受けて子供と先生との雰囲気が良かった。（女性、2年生）

「あまりよくなかった」「よくなかった」と回答した理由

- ・忙しくて余裕がなさそうで、自分の性格には合わないと感じた（男性、2年生）
- ・過酷だった（女性、2年生）

ウ．保育や子育てに関する授業の印象

中学校や高校の家庭科で受けた授業のうち、保育や子育てに関する授業の印象を尋ねたところ、約7割の高校生が「楽しかった」（24.6%）「まあ楽しかった」（43.9%）と回答した。

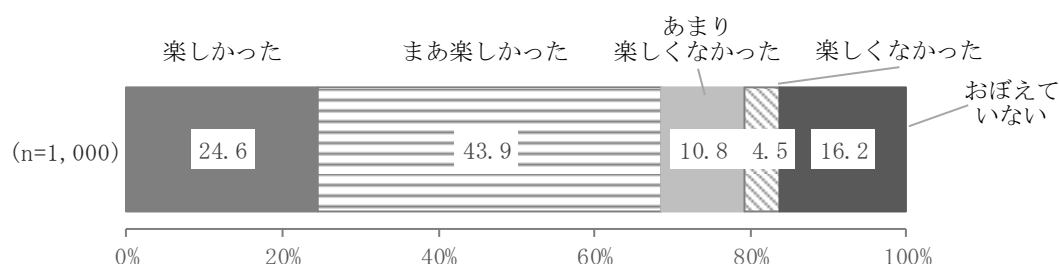


図 2.1.20 保育や子育てに関する授業の印象

そこで、保育や子育てに関する授業の印象の理由を自由記述で尋ねたところ、「楽しかった」「まあ楽しかった」と回答した理由は「子どもが好きだから」「学んだ内容が興味深かったから」といった内容が特に多くみられ、その他、「将来役に立つから」「制作や実践などが楽しかった」といった内容もみられた。一方、「あまり楽しくなかった」「楽しくなかった」と回答した理由は「子どもが好きではないから」「興味がないから」といった内容が中心であった。

（主な自由回答）

「楽しかった」「まあ楽しかった」と回答した理由

○子どもが好きだから

- ・子どもが好きで、将来子どもを産み育てたいと思っているから（女性、3年生）
- ・子どもが好きなので授業に興味を持てた（女性、2年生）
- ・子供が好きだからそのことについて学ぶのが楽しかった（男性、3年生）

○学んだ内容が興味深かったから

- ・子どもがどういう感情のときに何をすることが多いのかを学んだり、何歳くらいでなにができるのかを学ぶのが楽しかったから（回答したくない、1年生）
- ・子供と遊ぶイメージが強い保育だったが、子供の特徴であったり、一筋縄ではいかず様々な工夫がなされていることに気づいたから（女性、2年生）
- ・生命のしくみや、子供たちの行動の意味などを知るのがおもしろかったから（女性、3年生）

○将来役に立つから

- ・子供が欲しい私は、将来絶対必要になる知識だと思っていて、将来のことを考えながら学んだから。（女性、3年生）
- ・自分が子育てする立場になったら役に立ちそうだから。（女性、1年生）
- ・本物に近い赤ちゃんの模型のようなものを使って抱っこ体験したり、将来子供につけたい名前を考えたりなど実用性が高いから。（女性、1年生）

○制作や実践などが楽しかった

- ・折り紙を作ったり人形の赤ちゃんを抱っこしたりして楽しかったから（女性、1年生）
- ・幼児向けのおもちゃを制作して楽しかったから。（女性、1年生）
- ・一人っ子である自分には赤ん坊を抱くということが初めてだったので、模型ではあったが感動した（女性、3年生）

○その他

- ・自分も小さい頃こういう風に育ててもらったんだな、と感ずることが出来たから。（女性、2年生）
- ・実際に幼稚園の子どもと関わることができたから（女性、3年生）
- ・先生の実際の話を変えながら授業するのが面白かった。（女性、2年生）
- ・大變さを知れていい機会だったから（男性、3年生）

「あまり楽しくなかった」「楽しくなかった」と回答した理由

○子供が好きではないから

- ・あまり子供が好きではない（女性、2年生）
- ・子供が嫌いだからです（男性、2年生）

○興味がなから

- ・子育てに興味がなから（男性、2年生）
- ・私は正直、保育や子供について興味が無いので授業の内容もあまり興味が無いものでした。（女性、3年生）
- ・将来子供がほしいと思わないから（女性、2年生）

エ. 学校の授業以外で保育や子育てについて調べたり話を聞いたりする機会

学校の授業以外で保育や子育てについて調べたり話を聞いたりする機会について尋ねたところ、約4割の高校生が「よくあった」(11.2%)「少しあった」(30.1%)と回答した。

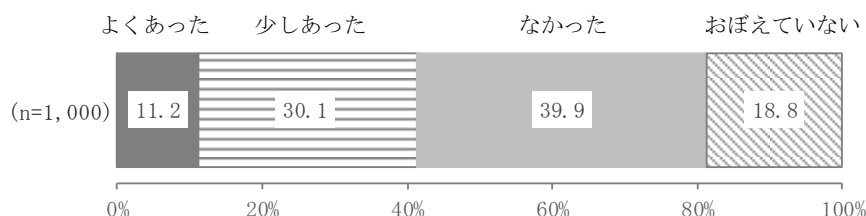


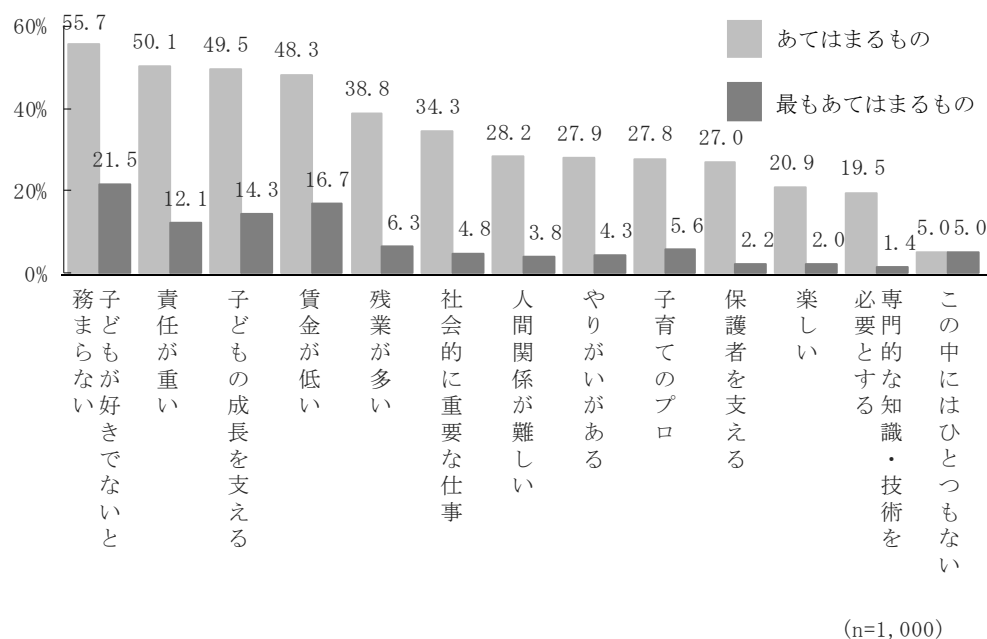
図 2.1.21 学校の授業以外で保育や子育てについて調べたり話を聞く機会

3) 保育職に対する意識

ア. 保育の仕事に対するイメージ

保育の仕事に対するイメージを尋ねたところ、「子どもが好きでないと務まらない」(55.7%)が最も高く、次いで「責任が重い」(50.1%)、「子どもの成長を支える」(49.5%)、「賃金が低い」(48.3%)が5割前後となっていた。

そのうち、最もあてはまるイメージをみると、「子どもが好きでないと務まらない」(21.5%)が最も高く、次いで「賃金が低い」(16.7%)、「子どもの成長を支える」(14.3%)、「責任が重い」(12.1%)となっていた。



※「あてはまるもの」の値を基準に降順並び替え

図 2.1.22 保育の仕事に対するイメージ

イ．保育の仕事への興味・関心

保育の仕事への興味・関心について尋ねたところ、3割強の高校生が「ある」(9.0%)「少しある」(24.8%)と回答した。

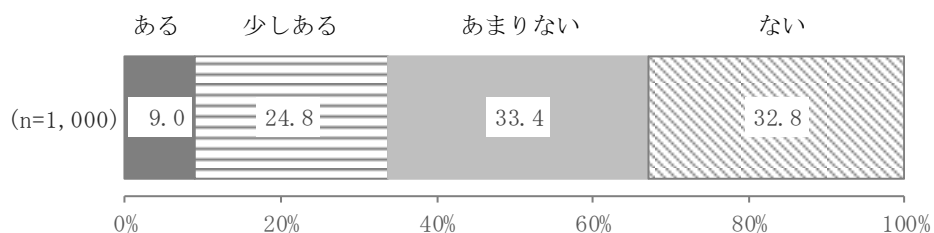


図 2.1.23 保育の仕事への興味・関心

ウ．将来、幼稚園や保育所の先生になりたいか

保育の仕事に興味・関心が「ある」「少しある」と回答した高校生に、将来、幼稚園や保育所の先生になりたいと思うか尋ねたところ、約半数の高校生が「思う」(13.9%)「少し思う」(34.6%)と回答した。

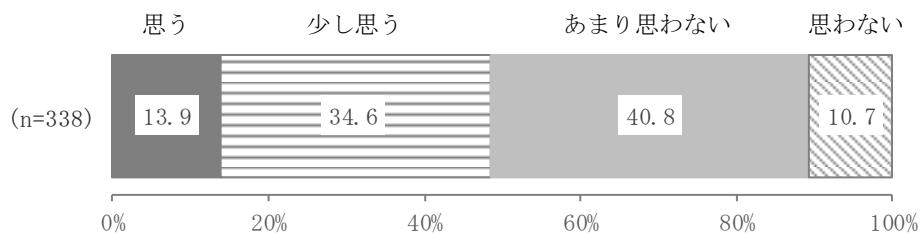


図 2.1.24 将来、幼稚園や保育所の先生になりたいか

エ. 幼稚園や保育所の先生になりたいと思う理由

幼稚園や保育所の先生になりたいと思う理由について尋ねたところ、「子どもが好きだから」(73.2%)が最も高く、次いで「保育の仕事に興味があるから」(50.0%)、「人のため、社会貢献できる職業だから」(26.8%)等であった。

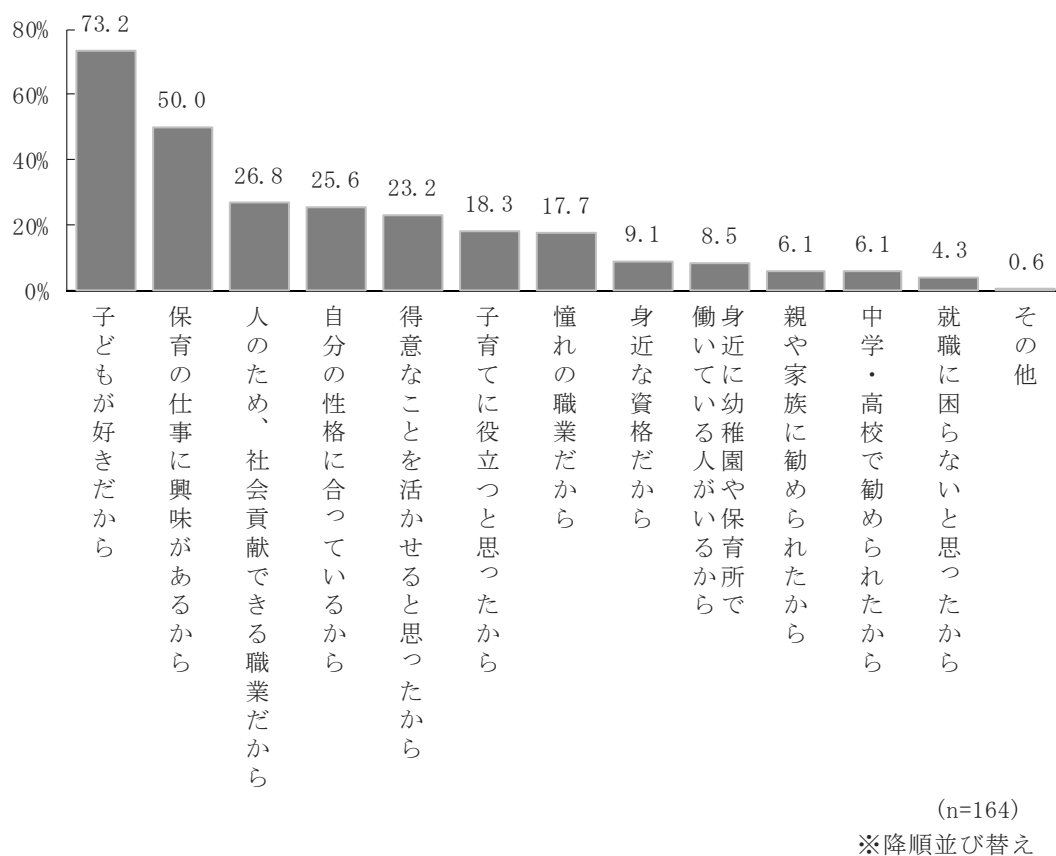
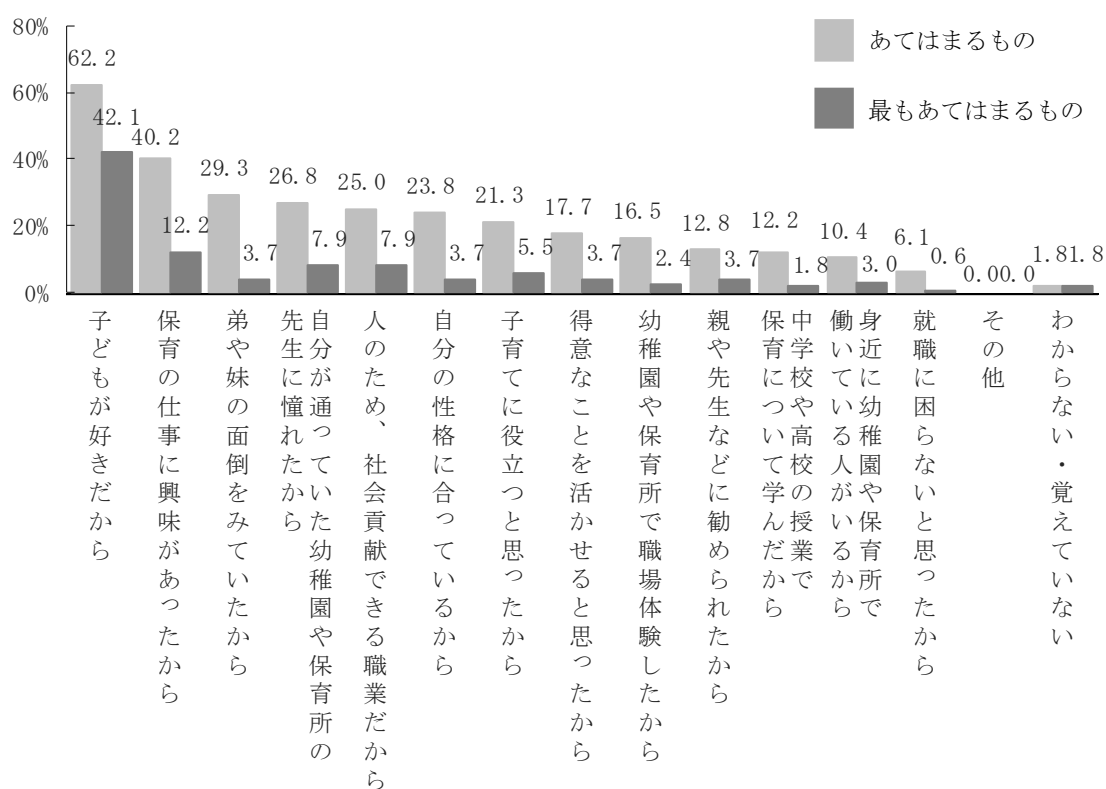


図 2.1.25 幼稚園や保育所の先生になりたいと思う理由（複数回答）

オ. 幼稚園や保育所の先生になりたいと思ったきっかけ

幼稚園や保育所の先生になりたいと思ったきっかけを尋ねたところ、「子どもが好きだから」(62.2%)が最も高く、次いで「保育の仕事に興味があったから」(40.2%)、「弟や妹の面倒をみていたから」(29.3%)であった。

そのうち、最もあてはまるきっかけをみると、「子どもが好きだから」が42.1%で最も高く、他項目との差が大きくなっている。



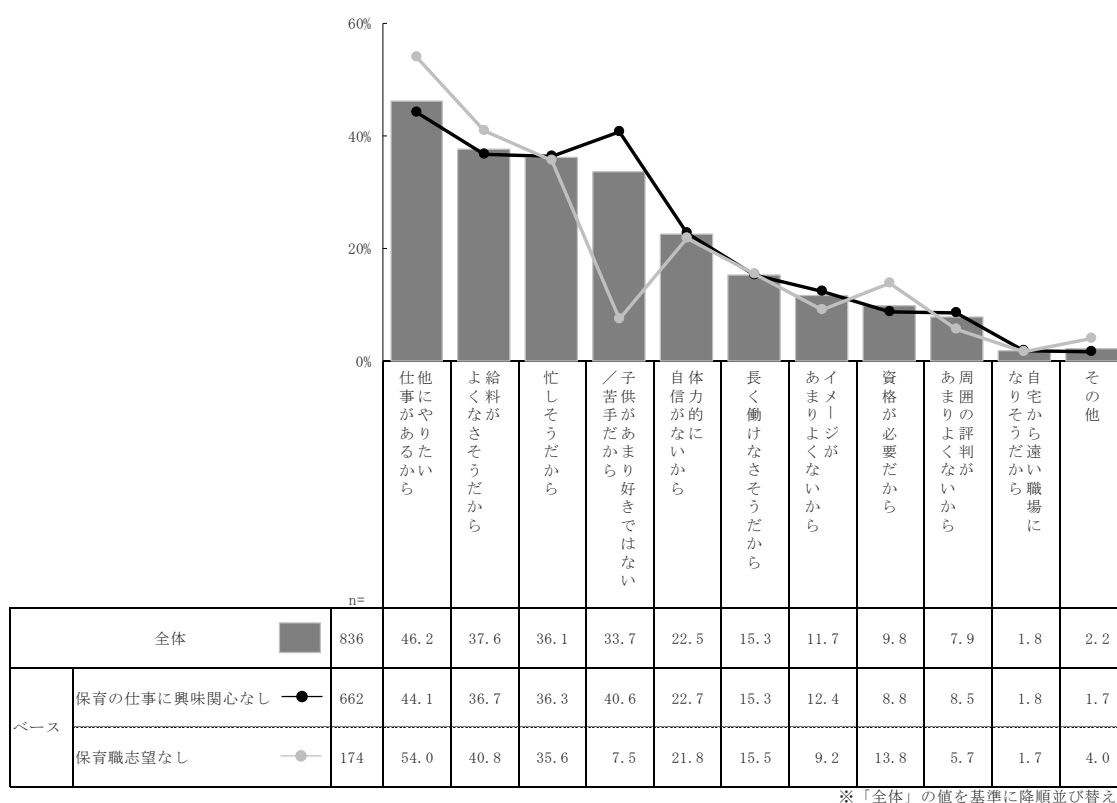
(n=164)

※「あてはまるもの」の値を基準に降順並び替え

図 2.1.26 幼稚園や保育所の先生になりたいと思ったきっかけ

カ. 保育の仕事に興味関心がない／保育職を志望しない理由

「保育の仕事への興味・関心」で「あまりない」「ない」と回答した高校生（興味・関心なし層）と、「将来、幼稚園や保育所の先生になりたいと思うか」で「あまり思わない」「思わない」と回答した高校生（保育職志望なし層）にその理由を尋ねたところ、どちらの層も「他にやりたい仕事があるから」が最も高く（興味・関心なし層 44.1%、保育職志望なし層 54.0%）、次いで「給料がよくなさそうだから」「忙しそうだから」もどちらの層も3割台後半～4割と高くなっていた。なお、「子供があまり好きではない／苦手だから」をみると、興味・関心なし層は 40.6%、保育職志望なし層は 7.5%となっており、回答に大きな差がみられた。



※「全体」の値を基準に降順並び替え

図 2.1.27 保育の仕事に興味関心がない／保育職を志望しない理由（複数回答）

キ、学校に通わなくても保育士の国家試験を受けられることに対する認知

高校卒業後、保育所や児童養護施設などの社会福祉士施設で、2年間勤務すれば、大学や短期大学、専門学校などに通わなくても、保育士の国家試験を受けることができることを知っているか尋ねたところ、「知っている」と回答した高校生は18.1%にとどまり、7割以上の高校生は「知らない」と回答した。

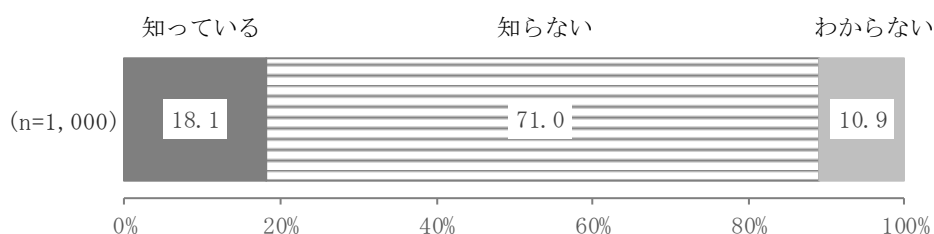


図 2.1.28 学校に通わなくても保育士の国家試験を受けられることに対する認知

4) 保育職の魅力を高める工夫や取組

ア、保育の仕事の魅力を高めるために必要だと思う改善・工夫

「保育の仕事への興味・関心」がで「あまりない」「ない」と回答した高校生と、「将来、幼稚園や保育所の先生になりたい」と「あまり思わない」「思わない」と回答した高校生に対し、保育の仕事の魅力を高めるにはどういった改善や工夫が必要だと思うかを自由記述で尋ねたところ、「給料を上げる」「負担軽減」といった労働環境改善に関するものが多くを占めた。他には、「職場体験・見学」や「魅力の発信」といった意見も複数みられた。

(主な自由回答)

○給料を上げる

- ・仕事量に比べて賃金があまりにも低すぎるから、もっと賃金をあげる必要があると思う。(女性、3年生、保育職志望はあまり思わない)
- ・大規模な待遇改善(給料等) (男性、3年生、興味・関心なし)
- ・賃金アップなどブラックな環境を変える(女性、1年生、保育職志望はあまり思わない)
- ・保育の仕事の難しさ・大変さに見合った給料の提供が必要だと思った(女性、2年生、興味・関心あまりなし)

○負担軽減

- ・ITを駆使して保育士の負担を減らしていく(女性、1年生、興味・関心あまりなし)
- ・ニュースで虐待保育を見かけます。虐待が起きる理由が保育士不足による業務負担が多いので、保育士の負担を軽減する工夫が必要だと思います。保育士がゆとりをもてるよう働き方の見直しをするなど。(回答したくない、1年生、興味・関心あまりなし)

- ・人数を増やす。残業がないようにする。子供の管理をデジタルでできるようにする。保護者への対応をどこまでやればいいのかの範囲を定める（女性、1 年生、興味・関心なし）
- ・残業の負担ができるだけなくなるサポート（女性、3 年生、保育職志望はあまり思わない）

○職場体験・見学

- ・職場体験を定期的にやる（女性、1 年生、興味・関心あまりなし）
- ・保育の仕事内容についての知識を増やすために授業などで保育園などの見学に行かせる（女性、1 年生、興味・関心あまりなし）

○魅力の発信

- ・保育の仕事のどういうところがいいかをもっと世間に知れ渡るように SNS を利用して仕事の様子をみてもらう。（女性、2 年生、保育職志望はあまり思わない）
- ・仕事内容が大変だと想像している人が多いため、保育士などの仕事の楽しさを知ってもらう。（女性、2 年生、保育職志望は思わない）

○その他

- ・トラブルが起きた時の保育士を守る制度（女性、2 年生、興味・関心あまりなし）
- ・子どもの責任を押し付けているので親が文句を言わないような工夫をしないといけない（女性、2 年生、保育職志望はあまり思わない）
- ・保育士として働く人が不祥事をまず起こさないようにすること。（女性、1 年生、興味関心あまりなし）

イ．幼稚園教諭や保育士を目指す生徒を増やすために必要な取組

幼稚園教諭や保育士を目指す生徒を増やすために必要な取組について尋ねたところ、「保育職の処遇改善（給与・職場環境等）」（44.7％）が最も高く、次いで「保育職の社会的地位の向上」（38.2％）、「補助金による修学支援」（36.2％）等であった。

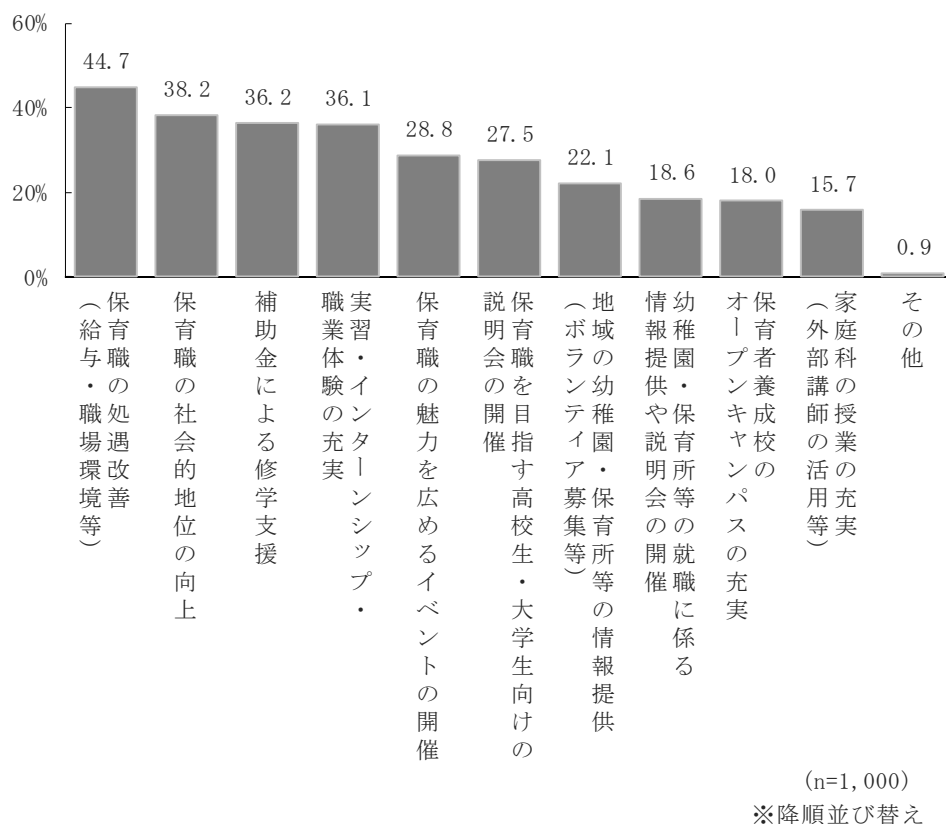


図 2.1.29 幼稚園教諭や保育士を目指す生徒を増やすために必要な取組（複数回答）

ウ、中学生や高校生に保育の仕事の魅力を伝えるために、国や教育委員会、学校などがすればいいことのアイディア

中学生や高校生に保育の仕事の魅力を伝えるために、国や教育委員会、学校などがすればいいことについてのアイディアを自由記述で尋ねたところ、「職場体験を増やすこと」「実際に働いている人から話を聞く機会を増やすこと」「子どもと触れ合う機会を増やすこと」や、「労働環境の改善」に関する意見が多くみられた。

(主な自由記述)

○職場体験を増やすこと

- ・インターンシップや職場体験などを活用し、生徒本人にやりがいを感じてもらう(女性、1年生)
- ・講演会を行ったり職場体験を1時間などではなく何日間か続けて行ったりする(女性、3年生)
- ・職場体験だけでなく、学生全員が保育の場に関わる必要がある。私が通っていた中学校では、中学3年生全員が近くの幼稚園に幼児保育体験を行っていた(女性、3年生)

○実際に働いている人から話を聞く機会を増やす

- ・どうして保育士が必要なのかを教えてあげられるような講演会を開く。普段保育士がどんな仕事をしているのか、子供と接している所以外の仕事も伝える(女性、2年生)
- ・今よりも積極的に保育士さんや幼稚園教諭に来校してもらい、ポジティブなエピソードを話してもらうことで、給料や残業等のネガティブなイメージを少しでも和らげることが大切だと思う(男性、1年生)
- ・中学校や高校のOBやOGに講演をしてもらい、保育の仕事を選んだきっかけや仕事に就くための方法、メリットなどの魅力を分かりやすく、身近に感じられるようなものを行うことが良いと思います(女性、3年生)

○子どもと触れ合う機会を増やす

- ・ボランティアなどで保育園に行く機会を作る(女性、1年生)
- ・もっと小さい子との交流を増やしどういう仕事なのかなど詳しく広めていくべき(女性、2年生)
- ・学生が保育の仕事と関わる機会を増やすため、近所の保育園や幼稚園と季節ごとのイベントなど通じて関わる。(女性、1年生)

○労働環境の改善

- ・虐待などのニュースでなりたいたいという気をなくすから、職場の改善をすべきだと思う(女性、1年生)

- ・今現在は保育士の待遇の悪さから興味がある人以外が寄り付かない状況になっているように感じるので国には他の業種以上の賃上げをしてほしい（男性、3年生）
- ・残業が多いということを SNS 等によく見るので、職場環境を変えていくことで保育関係の仕事を視野に入れる人は多いと思います（女性、3年生）

○その他

- ・家庭科の授業でもっと保育士さんの仕事を学ぶべき。（後略）（女性、3年生）
- ・やはり良いところだけを見せる、言うのではなくしっかりと辛いことや悩み事等も伝えることが大切だと考えます（男性、3年生）
- ・マイナスな情報だけでなくプラスな情報を広める（女性、2年生）

（3）まとめ

本調査の結果、保育職は「子どもが好きでないと務まらない」「責任が重い」「賃金が低い」というイメージが強く、保育・幼児教育分野への進学を希望する生徒も少ない状況にあることが分かった。

保育の仕事に対する興味を尋ねたところ、3割強の高校生が「ある」「少しある」と回答したものの、そのうち、「将来、幼稚園や保育所の先生になりたい」と思っていると回答した高校生は5割弱にとどまった。つまり、興味・関心があっても職業にしたいとは思っていない高校生が半数程度いることが分かった。そこで、「将来、幼稚園や保育所の先生になりたい」と思っている高校生にその理由を尋ねたところ、「子どもが好きだから」や「保育の仕事に興味があるから」「人のため、社会貢献できる職業だから」「自分の性格に合っているから」「得意なことを活かせると思ったから」といった回答が多くなっていた。こうした高校生の思いや考えが、将来、保育者を目指す動機になっていることが分かった。

一方、保育職に興味がない、幼稚園や保育所の先生になりたいと思わない高校生にその理由を尋ねたところ、「他にやりたい仕事があるから」「子供があまり好きではない／苦手だから」といった個人の方針によるもののほか、「給料がよくなさそうだから」、「忙しそうだから」といった仕事の条件面に関するものが挙げられていた。そこで、保育の仕事の魅力を高めるにはどういった改善や工夫が必要か自由記述で尋ねたところ、「給料を上げる」「負担軽減」といった労働条件改善に関するものが多く挙げられていた。

また、すべての回答者に、幼稚園教諭や保育士を目指す生徒を増やすために必要な取組について尋ねたところ、「保育職の処遇改善（給与・職場環境等）」や「保育職の社会的地位の向上」「補助金による修学支援」「実習・インターンシップ・職業体験の充実」が挙げられていた。そこで、中学生や高校生に保育職の魅力を伝えるために、国や教育委員会、学校などがどのようなことをすればいいか、そのアイデアを自由記述で尋ねたところ、職場体験や実際に働いている人から話を聞く機会、子どもと触れ合う機会など、保育へのタッチポイント増加に関する意見や、労働環境の改善に関する意見が多くみられた。

以上のことから、保育者を志望する高校生を増やしていくためには、保育の魅力を伝える取組として、保育の仕事や子供とふれ合える体験の機会を積極的に提供し、それらの取組を通じて、保育の仕事に興味をもってもらったり、自分の得意なことが生かせそうと感じてもらったり、子どもが好きと感じてもらうことが必要なのではないかと推察される。また、労働条件についてネガティブなイメージが浸透しているため、保育職のイメージ改善や魅力向上を図るためには、保育職の「処遇改善」「社会的地位の向上」が喫緊の課題であることが分かった。

